

大阪文学の観光利用についての研究

関谷 大陸

【目的】大阪は古くより数多くの文学作品の舞台となってきた。奈良時代には大伴家持や山上憶良が難波を題に歌を作り、江戸時代には近松や西鶴が大阪を拠点に元禄文化を支えた。昭和期には山崎豊子、司馬遼太郎、藤本義一、黒岩重吾など個性豊かな作家が多く登場した。近年でも、大阪ゆかりの文学作品の映画化、大阪出身の作家の文学賞受賞など、文学において大阪が注目される機会は多く、日本の文学史の中で大阪は非常に重要な役割を担っているといえるであろう。本研究の目的は、観光資源としての大阪文学の可能性を検討し、具体的な活用プログラムを構築することである。

【内容】大阪に縁のある文学者や文学作品をリストアップした。本研究は「場所」を主題とするものであるので、記念館、文学碑、顕彰板、作中に登場する建物などが具体的に実在、保存されており、その場を訪れることである程度作品や作家に思いをはせることが可能であろうものを選定した。それ故に、名作であったとしても具体的な「場所」を取り上げることが難しいもの(特定困難、範囲が広すぎるなど)は除外した(いくつか例外もある)。

調査の中で分かった大阪文学の観光への活用における問題点は、「作品自体に触れる機会が激減していること」、「人々がそこは文学ゆかりの場であると知ることができないこと」である。これらの問題点を解消するためには、作品の知名度向上および場所と文学のつながりに対するアクセスの容易化が求められる。

【結果】作成したリストと研究から見えた問題点を踏まえて以下のような提案を行う。

・ガイドブック、ガイドマップの作成・公開

過去にはいくつかの文学ガイドマップが出版されたことはあるが、往年の名作に加え、近年の作品についても情報を盛り込んだ包括的な文学観光案内の作成が必要。

・一般向けイベントの積極的な開催

- ①文学碑やゆかりの地をテーマにしたスタンプラリー
- ②大阪メトロの「ぶらりウォーク」等のウォーキングイベントに通過ポイントとして文学スポットを取り入れる
- ③記念施設同士の連携した特別展

・人々の関心が高い他の分野(食、お笑いなど)とのコラボレーション

特に有望な分野は「建築」。

→「オープンナガヤ大阪」や「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」の人気

→「インスタ映え」も狙える

通天閣、中央公会堂、大阪城など文学において重要な役割を果たす建築は多い。

→各建築におけるパネル展示、イケフェスとのコラボ企画など

研究の目的

観光資源としての大阪文学の可能性の検討および具体的な活用プログラムの構築

大阪文学とは

「大阪とゆかりのある文学者、またその作品」

- ・大阪で生まれ、大阪で育ち、少なくとも青春のある時期まで大阪で暮らしていた人たち
- ・大阪生まれではないけれど、人生のある時期を大阪で暮らし、その経験が後に作品に現れている人たち
- ・大阪に住むというよりは、旅行者としてある時期大阪に滞在し、その間の経験から、大阪、大阪人を主題に名作を書いた人たち

by 藤沢桓夫『大阪自叙伝』

+大阪に縁のない作者であっても、大阪が重要な要素として登場する作品

研究の対象と方法

対象：大阪文学に縁のある「場所」

方法：文学者や文学作品に関わりのある「場所」のリストアップ

- ・記念館、文学碑、顕彰板、作中に登場する建物などが具体的に実在、保存されており、訪れることである程度作品や作家に思いをはせることが可能な場所
- ・文学者、作品自体の知名度が高いもの、何らかの側面において高い価値が認められているもの、観光資源として活用可能性が見いだせるもの

リストアップから見たこと

627ヶ所の文学スポットのリストアップ

これらの場所を活かすための2つの方向性

・場所→作品

ある場所を訪れた人に対して、そこが文学ゆかりの地であることを何らかの方法によって認知してもらい、作家や作品に関心を持ってもらう

・作品→場所

ある作家や作品に触れることによって、それらに関わりのある場所に関心を持ってもらい、実際に訪問してもらう

問題点

①作品に触れる機会の激減

多くの作家の作品が絶版。優れた作品を残した作家であっても書店において一般人がその作品を手に入る機会がほとんど与えられていない。

→忘れ去られた作家の増加

②人々がそこは文学ゆかりの場であると知ることができない

多くの場所は碑、顕彰板、記念施設などの「モノ」が設置されておらず、一般人が文学とのかかわりを知ることはできない。

→また、「モノ」が残っていても気付くことが難しい場合も多い（学校、寺社仏閣、個人の敷地内など）。

問題点の克服

・作品の知名度向上

絶版作品の復刊(アンソロジーの出版)、電子書籍の充実化、「大阪ほんま本大賞」特別賞

・場所と文学のつながりに対してのアクセスを容易にする

文学ガイドマップの作成、インターネット上での公開

→現時点では行政の観光案内も不十分、大阪全体の文学的な観光情報を捉えることが困難

→モデルコースを作るよりもマップを提供して人々が自由に動けるようにする

ネットミュージアム兵庫文学館(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/bungaku/>)

→大阪府においても「ネットミュージアム大阪文学館」設営

・一般向けイベントの積極的な開催

・文学碑やゆかりの地をテーマとした景品付きスタンプラリー

・大阪メトロの「ぶらりウォーク」や、その他ウォーキングイベントに通過ポイントとして文学スポットを取り入れる

・記念施設同士の連携した特別展（与謝野晶子：さかい利晶の杜、山川登美子：梅花学園、石上露子：杉山家住宅で連携して明星展など）

他の分野とのコラボレーション

食：夫婦善哉、たこ梅、自由軒のカレー、鰻の皮…

お笑い：てんのじ村、鬼の詩、秋田実、長沖一…

映画・ドラマ：白い巨塔、プリンセスヨトミ、燃えよ剣、どてらい男…

有望な分野は「建築」

→若年層を中心とした建築の「インスタ映え」への注目

→「オープンナガヤ大阪」「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪(イケフェス)」の成功

大阪文学ゆかりの建築

・大阪ガスビル：駆け出しの頃の藤本義一がしばしば洋食を食べた

・伏見ビル：中島らもが事務所を構えた

・旧杉山家住宅：石上露子の生家

・大阪城天守閣：歴史小説で頻出

- ・梅田スカイビル：空中庭園が複数の作品で取り上げられている
- ・通天閣：初代、二代目いずれもが文学作品に頻出
- ・中央公会堂(新旧2種類の公会堂がある)

作品にもしばしば取り上げられるが、多くの文学者が講演を行っていることも重要。
→開高健が亡くなる年の1月に講演をしていた資料が2020年に発掘された

建築に関心を持つ層を大阪文学へと引き込む

- ・「文学と建築」展
- ・「イケフェス」の関連企画

「大阪〈生きた建築〉映画祭」→「大阪〈生きた建築〉文学祭」

各建築において関連する文学のパネル展示や作家ゆかりの品の公開

映画祭でも文学に原作を持つ作品を上映するなどの企画

→建築人気にあやかって大阪文学の再評価

今後の課題

- ・より具体的な提案
- ・リストの充実化

主な参考資料

2015『デジタル版 日本人名大辞典+Plus』講談社

<https://kotobank.jp/dictionary/nihonjinmei/101/>(最終閲覧日 2021/03/08)

浦西和彦編

2006『大阪近代文学辞典』和泉書院

関西文学散歩の会編

1981『大阪文学散歩』関西書院

近松誉文

1995『大阪墓碑人物事典』東方出版

日本近代文学会関西支部、大阪近代文学事典編集委員会編

2005『大阪近代文学作品事典』和泉書院

藤沢桓夫

1981『大阪自叙伝』中公文庫

三善貞司編

1986『大阪史蹟辞典』清文堂

参考資料：大阪文学スポット一覧表(人物五十音順)

人物	作品	スポット	場所	備考
		大阪文学学校	中央区谷町7-2-2	1954年創設の文学学校。初代校長は小野十三郎。OBに田辺聖子、玄月、朝井まかてらがいる。
		連歌所	杭全神社(平野区)	有形文化財。現存する数少ない連歌所。1708年に再建された。
		立川文庫ゆかりの地顕彰板	船場センタービル9号館西側(中央区)	『猿飛佐助』『真田幸村』など講談ブームのきっかけとなった。
		信濃橋洋画研究所跡碑	西区靱本町1-11	小出檐重、国枝金三、鍋井克之ら大阪文学の挿絵、表紙絵などで活躍した画家たちが在籍した。
	万葉集	歌碑	南海粉浜駅前(住吉区)	万葉研究の大家・犬養孝が粉浜在住であった縁で建立。「住吉の粉浜のしじみ開けもみず隠りてのみや恋ひわたりなむ」。
		歌碑	住吉大社(住吉区)	長原遺跡より出土した船形埴輪をモチーフとしており、万葉集の中の作品が17首刻まれている。
		歌碑	横野神社跡(生野区)	延喜式内社であった横野神社の跡地。犬養孝揮毫の「紫の根延ふ横野の春野には君をかけつつ鶯鳴くも」。
		歌碑	大和田住吉神社(西淀川区)	「浜きよくうらなつかしき 神代より千舟のとまる大和田の浦」。
		歌碑	仁徳天皇陵遊歩道(堺市)	石碑形式のもの一基に加え、プレート形式のものも数基設置されている。
		歌碑	方違神社(堺市)	門前に設置されている。「三国山こずえに住まふむささびの鳥まつがごとわれ待ち瘦せむ」。
		歌碑	陶荒田神社(堺市)	「梓弓末のはら野に鳥獵する君が弓弦の絶えむと思へや」。
		歌碑	近鉄布施駅前(東大阪市)	「河内女の手染めの糸を繰り反し片糸にあれど絶えむと思へや」。
		歌碑	枚岡公園(東大阪市)	「夕さればひぐらし来鳴く伊胡麻山越えてぞ我が来る妹が目を欲り」。
		歌碑	JR志紀駅西口(八尾市)	ロータリー内に建つ。「真鉋持ち弓削の川原の埋れ木の顚はるましじきことにあらなくに」。
		歌碑	豊中不動尊(豊中市)	「豊中不動尊と万葉歌碑」として「とよなか百景」の一つに選ばれている。「玉かつま島熊山の夕暮にひとりか君が山道越ゆらむ」。
		歌碑	せせらぎモール(池田市)	猪名川についての解説が刻まれている。「かくのみにありけるものを猪名川のおきを深めて吾が思へりける」。
		歌碑	近鉄上ノ太子駅前(羽曳野市)	竹内街道の解説文が刻まれている。「明日香河黄葉流る葛木の山の木の葉は今し散るらし」。
		歌碑	太子町役場裏(太子町)	犬養孝揮毫。「明日香河黄葉流る葛木の山の木の葉は今し散るらし」
		歌碑	片山北ふれあい公園(吹田市)	「ま愛しみさ寝に我は行く鎌倉の水無瀬川に潮満つなむか」。
		歌碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「君がため山田の澤に恵具つむと雪消の水に裳の裾ぬれぬ」。
		歌碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「防人に行くは誰が夫と問ふ人を見るが羨しさ物思もひもせず」。
		歌碑	深日漁港(岬町)	同地は「吹飯浦」として万葉時代から有名な景勝地。「時つ風吹飯の浜に出で居つつ贖ふ命は妹がためこそ」。
		歌碑	逢合橋(交野市)	同地に伝わる七夕伝説にちなんだ碑。「彦星と織女と今夜逢ふ天の川門に波立つなゆめ」。
		歌碑	天野川緑地公園(交野市)	同地に伝わる七夕伝説にちなんだ碑。「天の川梶の音聞こゆ彦星と織女と今夜逢ふらしも」。
		歌碑	機物神社(交野市)	同地に伝わる七夕伝説にちなんだ碑。「棚機の五百機立てて織る布の秋去り衣誰か取り見む」。
	古今集など	松虫塚	阿倍野区松虫通1-11	松虫にまつわるいくつかの伝説や歌が残されている。
	一寸法師	住吉大社	住吉区住吉2-9-89	子宝に恵まれない夫婦が住吉大社にお参りをしたところ一寸法師が誕生する。
相島虚吼(1868-1935)		句碑	東光院(豊中市)	虚子、子規に師事。「雛の座にカチカチ山の屏風哉登山口道に画きて教えけり」「放屁虫野へもなく放ちけり飼い犬を甘ったらかす火燵かな」。
會津八一(1881-1956)		歌碑	四天王寺聖霊院(天王寺区)	新潟出身の歌人。聖徳太子を題材とした「うまやどの みこのみことはいつのよの　いかなるひとか あふがざらめや」。
		歌碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「ひそみきて たがうつかねぞ さよふけて　ほとけもゆめに いりたまふころ」。
		歌碑	観心寺(河内長野市)	同寺の観音菩薩像を詠んだ「なまめきて　ひざにたてたる　しろたへの　ほとけのひぢは　うつつともなし」。
青木月斗(1879-1949)		句碑	東光院(豊中市)	ホトトギス派の俳人。正岡子規に師事。「門前すでに丈余の萩の盛りかな」。
暁鐘成(1793-1861)		墓所	勝楽寺(北区)	江戸時代の戯作者。地誌『摂津名所図会大成』。百姓一揆への加担で投獄、釈放後間もなく死去。
		墓所	瑞龍寺(浪速区)	五十回忌にあたる明治四十四年、生田南水と木村貞次郎が建立。鐘成は四十代後半に同寺の前で茶屋を営んでいた。
秋田実(1905-1977)		墓所	本要寺(中央区)	「上方漫才の父」と呼ばれる漫才作者。エンタツアチャコに台本を提供。いとしいしやAスケBスケを育てた。
		笑魂碑	玉造稻荷神社(中央区)	秋田は同神社の付近で誕生している。近隣の玉造三光館ではエンタツ・アチャコがデビューしている。
芥川龍之介(1892-1927)		花屋仁左衛門屋敷(芭蕉終焉の地)	中央区久太郎町3	「芭蕉庵松尾桃青」が同地において51歳で息を引き取る際の門弟たちの心の動きを描く。現在同地には碑が建つ。
芦田秋窓(1883-1966)		句碑	御霊神社(中央区)	大阪市出身の俳人。「幕張って　店商へる　祭かな」。
		句碑	吉井山敬恩寺(松原市)	秋窓は同寺を幾度も訪れており、掛軸・色紙・短冊なども残る。「越えし山 行く手の山も霞かな」。
芦辺拓(1958-)	天幕と銀幕の見える場所	楽天地	現・ビックカメラ千日前店(中央区)	1914～1930に存在した大レジャー施設を舞台に「ある人物」が繰り広げる冒険譚。
	天神橋筋	天神橋筋商店街	北区天神橋	友人を喪ったグラフィックデザイナーの豊は天神橋筋商店街を人の流れに逆行して南に歩く。

東秀三(1933-1995)	中之島三丁目	関西将棋会館	福島区福島6-3-11	昭和64年、新聞記者の健一は将棋会館で米永邦雄と桐山清澄のA級順位戦を見物する。
	天満老松町	少彦名神社	中央区道修町2-1-8	加賀から大阪に単身赴任してきた良太は神農祭にぶつかり、張り子の虎を下げた笹を買う。
		堀川戎神社	北区西天満5-4-17	良太は行きつけの店の従業員に頼まれ十日戎の「吉兆」を買いに行く。
麻生路郎(1888-1965)		句碑	阿倍野神社(阿倍野区)	尾道出身の川柳作家。「川柳雑誌」を主宰し新短詩運動に打ち込む。「夕桜とんぼがへりがしてみたし」。
天野莫秋子(？-？)		句碑	正蓮寺(此花区)	毎年8月26日には同寺において川施餓鬼が行われている。「落日が大法燈の川施餓鬼」。
有明夏夫(1936-2002)	天神祭の夜	法案寺	中央区島之内2-10-14	「海坊主の親方」こと赤岩源蔵は同寺にスリの一味が潜伏していると探り当て、住職らと協力して捜査する。
	尻無川の黄金騒動	旧大阪府庁跡地碑	西区江之子島2－1	源蔵は府庁舎の建物は外国の猿真似であると辛辣に批判するが、東京に尻を向けて建っているのは評価する。
	エレキ恐るべし	野崎観音(慈眼寺)	大東市野崎2-7-1	源蔵は野崎詣りでお染久松の墓、エレキテルなどを楽しむ中、森一鳳の「藻刈舟」図連続窃盗事件捜査の依頼を受ける。
有島武郎(1878-1923)		大阪市中央公会堂	北区中之島1-1-27	大正十年、「露国飢饉救済募金講演会」を行い「文藝家としての自分の立場」について説いた。
有栖川有栖(1959－)	清水坂	清水坂、清水寺	天王寺区伶人町	清水坂周辺を遊び場としていた幼少期の「わたし」が体験した山茶花の花にまつわる不思議な出来事。
	愛染坂	愛染坂	天王寺区夕陽丘町	作家と愛染坂で出会った女性との悲恋の顛末。
	源聖寺坂	源聖寺坂	天王寺区下寺町	源聖寺坂を描いた不気味な絵画と幽霊にまつわる物語。
	口縄坂	口縄坂	天王寺区夕陽丘町	口縄坂に住みつく猫の写真を撮影した女子高生の身に降りかかる恐怖体験。
	真言坂	真言坂、生国魂神社	天王寺区生玉町	事件に巻き込まれ命を落とした恋人の幽霊と生国魂神社で逢瀬を重ねる女性の物語。
	天神坂	天神坂	天王寺区伶人町	心霊探偵濱地健三郎は天神坂の料亭へとある女性を招く。
	逢坂	逢坂、合邦辻閻魔堂	天王寺区逢阪	逢坂にかかわる「俊徳丸」の物語を演じることとなった役者には幽霊を見る能力があった。
	夕陽庵	夕陽庵	天王寺区夕陽丘町	建長八年、熊野詣の代参を務めるある男が藤原家隆の死についての物語を聞く。
在原業平(825-880)		歌碑	渚の院跡(枚方市)	惟喬親王の別荘地であったとされる。「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」。
		歌碑	私市水辺プラザ(交野市)	天の川を美しくする会の創設者・有井貞登氏を偲び建立。「狩り暮らし棚機つめに宿からむ天の川原にわれは来にけり」。
阿波野青畝(1899-1992)		句碑	藤次寺(天王寺区)	高浜虚子の高弟。昭和49年の文化の日に大阪芸術賞を受賞、記念に詠んだ句「動く大阪 うごく大阪 文化の日」。
		句碑	住吉大社(住吉区)	「松笛や鳥知る千木にまでのひむ」。
		句碑	今宮戎神社(浪速区)	解説板によれば青畝の56基目の句碑である。「陋巷を好ませたまひ本戎」。
		句碑	カトリック玉造教会(中央区)	青畝はクリスチャン。「天の虹仰きて右近こゝにあり」。同教会にはキリシタン大名・高山右近の像がある。
		句碑	本願寺難波別院(中央区)	同寺の付近で没した松尾芭蕉を詠んだ「翁忌に行かむ晴れても時雨れても」。
		句碑	寂光寺(東淀川区)	同寺の流燈会を詠んだ「流燈の帯の崩れて海に乗る」。
		句碑	八幡太神社(箕面市)	「新緑の句碑も神慮の一つとす」。
		句碑	カトリック高槻協会(高槻市)	「磔像の全身春の光あり」。
		句碑	弘川寺(河南町)	「いくたびの春の思い出西行忌」。
安西冬衛(1898-1965)	春	詩碑	ザビエル公園(堺市)	岸和田藩士の子として生まれた詩人。堺中学校卒業生。「てふてふが一匹韃靼（だったん）海峡を渡つて行つた」。
生田花朝女(1889-1978)		生誕地の碑	天王寺区上之宮町4-40	「百済野の むかしかたりや 霜の萩」の句が刻まれている。
		句碑	阿倍野神社(阿倍野区)	菅楯彦門下の女流画家。父南水に師事し俳句も嗜んでいた。「飯蛸や 春の景色は 淡路より」。
		句碑	四天王寺(天王寺区)	門人による建立。花朝は四天王寺寺宝・昭和荘嚴經の経箱を描き奉納している。「行春の 鳥は人住む 煙かな」。
		句碑	生國魂神社(天王寺区)	「餅花の 柳芽をふく 二月かな」の句が黒い生駒石の碑に刻まれている。
生田南水(1860-1934)		句碑	四天王寺(天王寺区)	生田花朝女の父。碑文は菅楯彦の字。「ふる花の ちりりたりや 聖霊会」。
		句碑	住吉大社(住吉区)	娘である花朝女による建立で、揮毫は菅楯彦。「長閑さや岸の姫松忘れ貝」。
		味原池碑	弥栄神社（生野区）	大正七年に埋め立てられた大池。売却した代金の一部が同神社に収められた。このいきさつが南水撰文で記されている。
生駒山人(1712-1752)		墓所	森家墓地(東大阪市)	日下の庄屋であった森家の出身。漢詩の才能は頼山陽にも比肩すると称えられた。41歳で死去。
石井露月(1873-1928)		句碑	普門寺(高槻市)	明治から昭和にかけての俳人。「聞くならく伽藍の内外秋の風」。
石濱恒夫(1923-2004)		洋食やろく	住吉区東粉浜3-30-16	1935年創業の洋食屋。玉子コロッケが名物。暖簾は石濱、藤沢恒夫、棋士の升田幸三の筆。
		西長堀アパート	西区北堀江4	日本住宅公団による高層住宅の第一号。司馬遼太郎、森光子、野村克也らも一時期住んでいた。
	大阪ぐらし	歌碑	法善寺横丁(中央区)	藤沢恒夫のいところ。川端康成に師事。作詞家としても活躍し『大阪ぐらし』はフランク永井の持ち歌。
和泉式部(978-？)		歌碑	信太森葛葉稲荷神社(和泉市)	「秋風は すごく吹くとも 葛の葉の うらみがほには 見えじとぞ思ふ」。

泉鏡花(1873-1939)	南地心中	四天王寺	天王寺区四天王寺1-11-18	船場の金持ちに落籍されたお柵は四天王寺境内の猿回し多一と惹かれ合う。
		住吉大社	住吉区住吉2-9-89	『南地心中』は鏡花が明治44年来阪し、宝の市の練行列を見て感銘を受け執筆したという。
伊勢(872-938?)		伊勢寺	高槻市奥天神町1-1-19	三十六歌仙の一人。晩年の住居跡に建てられたとされる。敷地内には句碑、筆塚、廟堂などがある。
磯野いさむ(1918-)		句碑	小谷城址(堺市)	番傘川柳社名誉主幹。「戦記読む ひととき過去は ほろにがし」。
石上露子(1882-1959)	小坂橋	旧杉山家住宅	富田林市富田林町14-31	与謝野晶子と並ぶ明星派の詩人。本名・杉山タカの生家。関連資料が展示されている。
		墓所	高貴寺(河南町)	子ども2人の法名も記されている。
		案内標	寺内町南側の竹林(富田林市)	明星で発表された詩の題材となった場所。
		記念碑、歌碑	本町公園(富田林市)	『小坂橋』の碑と、日露戦争で命を落とした若者を悼んだ「みいくさに」の歌碑。
伊丹三樹彦(1920-2019)		大阪ガスビル	中央区平野町4-1-2	俳人、写真家。日野草城に師事。建築科の学生時代に、ガスビルを見学した。後に、草城の関係で再び出入りしている。
伊東静雄(1906-1953)	百千の	歌碑	阿倍野区松虫通2-7-8	共立通に住んでいた伊東が同地周辺をしばしば散策していたことから文学碑が建てられた。
	曠野の歌	歌碑	住吉高校(阿倍野区)	伊東は昭和4年以降28年に没するまでほとんどの期間を同校国語科教員として過ごした。
伊藤柏翠(1911-1999)		句碑	道明寺(藤井寺市)	俳人。高浜虚子に師事。「大安で吉日梅の道明寺」。
稲垣足穂(1900-1977)	父と子	第五回内国勲業博覧会会場(天王寺公園)	現・てんしば(天王寺区)	稲垣は幼少期に父と共に訪れた博覧会を印象深いものとして回想している。
稲畑汀子(1939-)		句碑	冥応寺(茨木市)	高浜虚子の孫。碑の周囲には桜の木がある。「春秋を極めてしだれ桜かな」。
		三代句碑	忠岡神社(忠岡町)	高浜虚子、高浜年尾、稲畑汀子の親子三代の句碑。「千鳥の洲とて 訪ねたき 心すぐ」。
井原西鶴(1642-1693)		墓所	誓願寺(中央区)	長らく所在不明であったが、明治20年頃に境内で発見された。発見者は幸田露伴など諸説ある。毎年9月に西鶴忌。
		句碑	住吉大社(住吉区)	貞享元年、西鶴は同社で大矢数俳諧を行い、二万三千五百句を一昼夜で詠んだ。「何と世に桜も咲かず下戸ならば」。
		句碑	柴籬神社(松原市)	境内のムクゲを詠んでいる。「柴籬宮 むくけうへてゆふ柴垣の都哉」。
		終焉の地碑	中央区谷町3-2	没後三百年記念の建立。辞世の句「浮世の月 見過ごしにけり 末二年」。
		西鶴像	生國魂神社(天王寺区)	西鶴は同神社の南坊において延宝八年に開催した矢数俳諧において一昼夜で四千句を成就した。
		「街角の再発見」碑	阪急岡町駅前(豊中市)	岡町の歴史についての碑。同駅近くの瑞輪寺に眠る水田西吟の師である西鶴の「爰ぞ萬句俳諧名所の桜塚」の句が刻まれている。
	日本永代蔵	文学碑	中央区本町橋 3	北浜ライオンズクラブが設置。碑の真ん前に「ゴミ捨て禁止」の札が無粋に立っている。
	椀久一世の物語	円徳寺	生野区巽中4-8-26	江戸の商人・椀屋久右衛門の人生を描く。久右衛門は同寺で剃髪する。
	好色五人女	おさん茂平恋道中碑	茨木市山手台 4	大阪小町とも称されたおさんが茂平と姦通し逃げる途中で通ったとされる地。
今江祥智(1932-2015)	ぼんぼん	末吉橋	中央区	平野の豪商末吉孫左衛門が架けたとされる。同橋付近に洋たちの家があり、作中にしばしば登場する。
		坐摩神社	中央区久太郎町4-3	洋たちは同社の清掃奉仕の行き道で他校の生徒としばしば喧嘩をして帽子や校章を奪い合う。
		大阪ガスビル	中央区平野町4-1-2	洋たちは同ビルの一室で行われた叔父の娘の披露宴でプリンの美味しさに衝撃を受け何個も平らげた。
今中楓溪(1883-1963)	野崎小唄	歌碑	慈眼寺(大東市)	大正～昭和に活躍した歌人。野崎詣りをテーマとした「野崎小唄」は東海林太郎の代表曲。
入江昌喜(1722-1800)		墓所	梅松院(天王寺区)	大阪の代表的な町人学者。「万葉集」や「竹取物語」を研究。
入江来布(1885-1956)		句碑	聖天宮西江寺(箕面市)	天下茶屋に暮らした俳人。「三千の世界は須臾にけさの秋」。
岩阪恵子(1946-)	おたふく	千林商店街	旭区森小路2-8	商店街で細々とうどん屋を営む女性の物語。ダイエー一号店の出店地でもある。
上島鬼貫(1661-1738)		墓所	鳳林寺(天王寺区)	芭蕉と並ぶ江戸中期の俳人。近くには明治財界の大物である松本重太郎の墓もある。
		句碑	服部天神(豊中市)	「賃とらで 象も田をかえす 動き哉」。
		夕霧太夫墓所	浄国寺(天王寺区)	夕霧の没後11年、鬼貫が墓参りの際に「此塚に 柳なくとも あわれ也」と詠んだとされる。
		句碑	西区新町 1	来山句碑とともに設置されている。「後の月 入りて貌よし 星の空」。
		供養碑	鶴満寺(北区)	鬼貫の七十五回忌に建立。「おもしろさ 急には見えぬ すすきかな」の句が刻まれている。
上田秋成(1734-1809)	春雨物語	寓居跡碑、墓碑	加島稻荷（現・香具波志神社）	「宮木が塚」に記述あり。幼少期より参詣し、三年ほど寓居。68歳の時に、68の和歌を奉納。
内田康夫(1934-2018)	御堂筋殺人事件	本願寺難波別院（南御堂）	中央区久太郎町4-1-11	浅見光彦シリーズ第37作。南御堂で事件のカギを握る男の死体が発見される。
宇野浩二(1891-1961)	十軒露地	寓居跡(十軒長屋)	日本橋北詰西入ル北川(南区)	宇野は11歳の頃から早稲田大学進学までの約10年間でここで暮らし、鍋井克之や寺内万次郎との交流で芸術に開眼した。
	清二郎 夢見る子	文学碑	中大江公園(中央区)	幼少期を過ごした大坂を題材とした小説。
	橋の上	住吉公園	住之江区浜口東1-1-13	主人公と幼馴染のおもやは住吉公園内の料亭で逢瀬する。
江戸川乱歩(1894-1965)	D坂の殺人事件	寓居の跡 明智小五郎誕生の地	大阪府守口市八島町1-8	27歳の時に移り住んだこの地で明智小五郎初登場作『D坂の殺人事件』が執筆された。
	黒蜥蜴	通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	明智小五郎と敵対する盗賊・黒蜥蜴が通天閣の上でダイヤの受け渡しを計画する。

大伯皇女(661-701)		歌碑	叡福寺(太子町)	弟、大津皇子を二上山に葬った際の「うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟と我が見む」。
大沢在昌(1956-)	走らなあかん、夜明けまで	関西将棋会館	福島区福島6-3-11	坂田三吉と一文字違いの名前を持つ主人公は同館5階の将棋博物館(現在は閉鎖)でトラブルに巻き込まれる。
		梅田地下街	北区	主人公は大切なアタッシュケースを持ち去った男と複雑な地下街で追跡劇を繰り広げる。
		通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	新世界でヤクザを追う主人公は王将碑を見、通天閣は大阪人でもあまり登らないと知る。
大島真寿美(1962-)	渦 妹背山婦庭訓 魂結び	竹本座跡碑	中央区道頓堀1-8	主人公・近松半二は幼少期から竹本座に出入りし、同座の座付作者として活躍する。
		道頓堀ミュージアム並木座	中央区道頓堀1-1-6	作中では主人公の友人、ライバルとして描かれた並木正三にスポットを当てた体験型施設。
大谷羊太郎(1931-)	鳥羽・葛西水族館殺人事件	海遊館	港区海岸通1-1-10	海遊館である企業の社長の死の真相をほのめかした男性が葛西臨海公園で殺害される。作者は東大阪出身。
大伴大江丸(1722-1805)		墓所	円通寺(天王寺区)	江戸中・後期に活躍した俳人。俳画や書にも通じていた。一族が合祀されている。
		句碑	住吉大社(住吉区)	同社の松苗勧進は、社前の松原が枯れてゆくことを惜しんだ大江丸らが、献木幹旋と俳句献詠を募り神前に奉納したことが起源。
大伴家持(718-715)		歌碑	星田妙見宮(交野市)	同地に伝わる七夕伝説にちなんだ歌碑。「織女し舟乗りすらしまそ鏡清き月夜に雲立ちわたる」。
大野翠峰(1891-1969)		句碑	祥雲寺(堺市)	堺出身の俳人。堺市文化財保護委員として郷土史にも取り組んだ。半夜会主宰。「重陽の松かげ青し石の肌」。
大橋敦子(1924-2014)		句碑	東光院(豊中市)	元々京都室町句碑通りにあったものを京都近鉄百貨店へ移転に伴い移転。「九重の 枝垂れの先の さきの花」。
大橋桜坡子(1895-1971)		句碑	住吉大社(住吉区)	「ホトトギス」同人として活動。「雨月」を主宰。「住吉に歌の神在り初詣」。
岡井盾(1760-1837)		句碑	万福寺(天王寺区)	江戸中期の俳人。勝見二柳に師事。「白露やつゆにむかへばつゆもなし」。
岡西惟中(1639-1711)		墓所	銀山寺(天王寺区)	江戸前・中期の俳人。西山宗因に師事し、井原西鶴と共に談林派の実力者として活躍した。
織田作之助(1913-1947)		来遊の地碑	大阪キリスト教短期大学(阿倍野区)	かつて同地にあった料亭「松虫花壇」に織田が恋人の宮田一枝とともに訪れた。
		墓所	楞厳寺(天王寺区)	境内に織田家の墓があり、両親や姉も眠る。同寺の田尻玄龍住職は織田の高津中学時代の同級。
		旧杉山家住宅	富田林市富田林町14-31	晩年の織田が身を寄せた竹中家から寄贈された遺品が展示されている。
		織田文庫	中之島図書館(北区)	作之助の実姉である竹中タツから同図書館へ関連資料が寄贈され、保存されている。
		大阪ガスビル	中央区平野町4-1-2	織田は同ビル七階の学士会倶楽部を訪れよく将棋を指していた。また、食堂も利用していた。
	土曜夫人	記念碑	本町公園(富田林市)	織田は昭和20年以降、死の2か月前まで富田林市市寿町の竹中家に身を寄せた。
	放浪	天王寺公園	天王寺区茶臼山町 5	文吉は金造の金を食事、活動写真、遊郭などで使い果たし、天王寺公園で服毒自殺をする。
	夫婦善哉	夫婦善哉	中央区難波1-2-10	言わずと知れた法善寺名物。店内には映画版の柳吉役・森繁久彌の書など同作に関わる資料が飾られている。
		自由軒本店	中央区難波3-1-34	織田が最良にしており、店内には写真と「トラは死んで皮をのこす、織田作死んでカレーライスのをのこす」の文章が飾られている。
		正弁丹吾亭	中央区道頓堀1-7-12	柳吉が語るミナミのうまいもんの中に同店の関東煮が挙げられている。
		たこ梅	中央区道頓堀1-1-8	弘化元年（1844年）から続く「日本一古い関東煮屋」、作中でうまいもんとして紹介されている。
		句碑	法善寺横丁の正弁丹吾亭前(中央区)	作之助の17回忌(昭和39年)、長沖一や藤沢恒夫を中心に建立。「行き暮れて　ここが思案の　善哉かな」。
	大阪の女	太左衛門橋	中央区宗右衛門町7-19	主人公雪子の母の亡骸を運んだ橋、初恋の男と再会した橋、戦火を逃れて渡った橋として重要な役割を果たす。
	西鶴忌	誓願寺	中央区上本町西4-1-21	「私」は、昭和十七年、西鶴の二百五十年忌に集まったのが二十名だけであったことに物寂しさをおぼえる。
	馬地獄	玉江橋	北区中之島4~福島区福島1	作中では「船玉江橋」。橋の近くの倉庫会社に勤務する主人公は橋を行き来する男女や荷馬車を眺めるのを日課とする。
	勸善懲惡	御霊神社	中央区淡路町4-4-3	語り手は同社の前で落ちぶれた姿でビラ配りをする旧知の仲の山師・川那子丹造に再会する。
	アド・バルーン	中之島公園	北区中之島1-1	ままならぬ人生に死を覚悟した主人公は中之島公園でぼんやりしていたところを拾い屋の秋山に救われ再出発する。
		四天王寺西門	天王寺区四天王寺1-11-18	新聞の力を借り秋山と再会を果たした主人公は五年後に鳥居の下で再び会うことを約束し、別れる。
	木の都	文学碑	口縄坂(天王寺区)	織田は青春の思い出としてこの坂を通ったことを回想している。
小田実(1932-2007)	大阪シンフォニー	大阪砲兵工廠	大阪城～大阪ビジネスパーク	戦災孤児の「マルコ・ポーロ」は、空襲後の砲兵工廠跡に天皇陛下とアメリカ大統領を来させたいと考える。
小野十三郎(1903-1996)		詩碑	天王寺高校(阿倍野区)	大阪文学学校長も務めた大詩人。碑は近年、日本橋から小野の母校である天王寺高校に移設。
	古き世界の上に	天王寺公園	天王寺区茶臼山町 5	同詩集の中で小野は昭和初期の天王寺公園のありのままの姿を描いた。現在のてんしばと比べるのも面白い。
小野小町(？-？)		小町塚	阿倍野区王子町4-3-29	七歌仙の一人である小野小町は晩年阿倍野に隠棲したというのが、風説に過ぎず、そのような記録はない。
		歌碑	つるのはし跡公園(生野区)	日本最古の橋とされる「猪甘津の橋」跡。「忍ぶれど人はそれぞれと御津の浦に渡りそめしに猪甘津の橋」。
		歌碑	玉造稻荷神社(中央区)	新勅撰集より。「湊入りの 玉つくり江に　こぐ舟の 音こそたてね 君を恋ふれど」。
折口信夫(1887-1953)		墓所	願泉寺(浪速区)	折口の墓は石川県羽咋市にあるが、こちらにも分骨埋葬されている。
		歌碑	御勝山南公園(生野区)	生野を詠んだ歌が刻まれている。「小橋過ぎ 鶴橋生野来る道は　古道と思ふ 見覚えのなき」。
	十日戒	生誕の地碑、文学碑	鴟町公園(浪速区)	民俗学を取り入れた国文学を確立。並んで2つの碑が建っている。

	幼き春	歌碑	大国主神社(浪速区)	没後25年を機に有志が建立。同神社には、木津川開削の立役者である木津勘助の像もある。
開高健(1930-1989)		大阪市中央公会堂	北区中之島1-1-27	亡くなる年の1月に「アジアを歩くと…」と言う題の講演を行った。2020年に発掘された最新資料。
	破れた繭	文学碑	近鉄北田辺駅前(東住吉区)	開高は幼少期から青年期までをこの地で過ごし、自伝的小説『破れた繭』を書いた。
	日本三文オペラ	大阪砲兵工廠	大阪城〜大阪ビジネスパーク	第二次大戦まで存在したアジア最大級の軍事工場。跡地ではアパッチと呼ばれる人々が金属を盗掘した。
	新しい天体	たこ梅	中央区道頓堀1-1-8	開高は祖父の代から同店を鼻屑にし、作中では10ページにわたりその魅力を語っている。エッセイ「ある日の散歩」などにも登場。
加賀千代女(1703-1775)		句碑	新町北公園(西区)	元は九軒町西端にあった(東端には芭蕉句碑があったが現在は行方不明)が現在の地に移転。「だまされて来て誠なりはつ桜」。
		句碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「あさがほに 釣瓶とられて もらひ水」。
香川進(1910-1998)		歌碑	呉服神社(池田市)	昭和・平成の歌人。「地中海」主宰。「木のもとに 遊ぶ子供のこゑきけば 神は空よりくだりくらしも」。
梶井基次郎(1901-1932)		墓所	常国寺(中央区)	梶井の命日である3/24には檸檬忌が催される。墓にはしばしば檸檬が供えられている。
		旧居跡	阿倍野区王子町2-17-26	肺結核の療養のため転居を繰り返した後に帰阪した梶井が1931年から翌年の死までを過ごした。
	檸檬	文学碑	靱公園(西区)	梶井の代表作。靱公園は戦後GHQの飛行場として利用されていた土地である。
片山北海(1723-1790)		墓所	梅松院(天王寺区)	江戸時代の漢詩結社「混沌社」主宰。結社には頼春水や木村兼葭堂が参加。向かって左には実父の墓。
桂信子(1914-2004)		句碑	勝尾寺(箕面市)	日野草城に師事。1970年に「草苑」を創刊し活動。「ゆるやかに 着てひとと逢ふ 螢の夜」。
上司小剣(1874-1947)	東光院	東光院	豊中市南桜塚1-12-7	幼馴染の男女が偶然再会し東光院を訪れるがお互いに上手く接せぬ姿を描く。
	鱧の皮	夫婦善哉	中央区難波1-2-10	主人公は同店の客引きお多福人形を見てこれまでの人生に思いをはせる。
	かしく 髷	法清寺(かしく 寺)	北区曾根崎1-2-19	酒乱で命を落とした遊女かしくの墓所。かしく墓を砕いて飲めば酒乱が治ると言い伝えられる。
河井醉茗(1874-1965)		歌碑	大仙公園(堺市)	堺出身の歌人。「文庫」の記者として北原白秋や島木赤彦を世に送り出した。
		生家跡の碑	北旅籠町1（堺市）	旧紀州街道の民家の合間にひっそりと建っている。
	堺へ帰らう	大蘇鉄	妙国寺(堺市)	信長が安土城に植え替えた蘇鉄が毎晩堺に帰りがったという伝説をもとに、堺へ帰る与謝野晶子と自身を描く。
川田順(1882-1966)		歌碑	中之島図書館前(北区)	住友の実業家としても有名。図書館開館50周年を記念し贈られた歌。
河野繁子(？-？)		歌碑	岸和田城二の丸広場（岸和田市）	和歌山出身の歌人。昭和26年に岸和田に移住し夢殿短歌会を設立。「めぐりつつ 登り来りし高殿の 俯仰の視野に 花あふれたり」。
川端康成(1899-1972)		生誕之地碑	北区天神橋2	大阪天満宮の向かい。ここには料亭「相生楼」があり、碑文もそれに言及しているが、現在はマンション。
		以文会友碑	大阪府立茨木高校(茨木市)	康成のノーベル文学賞受賞時に学校側の依頼で康成が『論語』から「以文会友」と言う言葉を寄せた。
		川端康成先生旧跡	茨木市宿久庄1-11-25	康成が3歳から中学三年生の時までを同地で過ごした。学校まで6kmの道のりを毎日歩いたとされる。
		極楽寺	茨木市宿久庄1-20-2	川端家の菩提寺。
		慧光院	茨木市室山1-7-8	康成の祖父・三八郎が山林田地の寄進を行い創建された。
		虎谷誠々堂	茨木市元町3-8	若かりし日の川端康成や大宅壮一が訪れた書店。現在本店は建て替えられ教科書部・外販部となっている。
		堀廣旭堂	茨木市大手町4-19	川端は同店でツケで本を買ったという。建物は新しくなったが入り口には開店当初の看板が飾られている。
		茨木市立川端康成文学館	茨木市上中条2-11-25	康成は3歳から中学卒業までを茨木で過ごした。体験コーナーでは康成の扮装で記念撮影ができる。
	骨拾い	川端家墓地	川端康成旧跡裏山(茨木市)	十八基の墓碑。昭和42年に康成が中央に川端家菩提塔を建立した。
	反橋	文学碑	住吉大社(住吉区)	幼い康成は母に抱かれて反橋を渡った。上るよりも下りの方が怖かったという。
	師の棺を肩に	東本願寺茨木別院	茨木市別院町3-31	中学時代に師・倉崎仁一郎の死に遭遇、同所にて学友たちと共に葬儀を行ったことを
河辺宮人（?-?）		歌碑	姫嶋神社（西淀川区）	万葉集巻二の「妹な名は千代に流れん姫島の小松がうれに苔むすまでに」。河辺は伝未詳だが、河原宮に仕えていたと考えられる。
かんべむさし(1948-)	追いこされた時代	大阪市庁舎	北区中之島1-3-20	市庁舎上空に空中軍艦が出現、中之島一帯に様々な飛行物体が現れ御堂筋が大混乱に陥る。
	決戦・日本シリーズ	阪神梅田駅・阪急梅田駅	北区	阪神タイガース、阪急ブレーブスの日本シリーズで、勝者側の車両が敗者側の路線を走るという奇想天外なイベントが行われる。
祇空(1663-1733)		祇空翁文塚	太平寺(天王寺区)	江戸前期に活躍した談林派の俳人。芭蕉に傾倒していた。同寺に碑が建てられている理由は不明。
菊池寛(1888-1948)	藤十郎の恋	坂田藤十郎墓所	四天王寺(天王寺区)	菊池が藤十郎の墓に哀惜を覚え執筆したとされる。中村鴈治郎による上演が成功した記念に白井松次郎が供養塔を建立している。
岸本如水(?-?)		句碑	祥雲寺(堺市)	俳人。大野翠峰に師事し、翠峰の後を継ぎ半夜会を主宰。「天日へ秋蝶石を光たつ」。
岸本水府(1892-1965)		墓所	青蓮寺(天王寺区)	番傘川柳社を結成。企業宣伝コピーの考案やOSKの『桜咲く国』の作詞などマルチに活躍。
		句碑	道頓堀今井前(中央区)	「河庄」の治兵衛を演じる初代中村鴈治郎を称えた「頬かむりの中に日本一の顔」。
		句碑	成田山新勝寺(寝屋川市)	関西演芸協会が建立した芸人合祀が目的の「笑魂塚」横に建つ。「ハリキリの大阪弁が立てた旗」。
北山河(1893-1958)		句碑	大阪天満宮北門付近(北区)	俳誌「大樹」主幹として活動。「船渡御へ 見せて浪速の 土性骨」。
		道具屋筋商店街	中央区難波千日前	大学進学を機に大阪にやってきた主人公はたこ焼き器入手のために道頓堀を訪れる。NGK、戎橋なども登場。

北夏輝(1986-)	美都で恋めぐり	大阪城公園	大阪市中央区大阪城 3	失恋して落ち込む主人公は仲間たちと共に大阪城公園を訪れ、天守閣から地上を眺める。
		HEP FIVE	北区角田町5-15	観覧車とクジラのオブジェが有名な商業施設。主人公が好意を抱く相手とデートする。
		梅田スカイビル空中庭園	北区大淀中1-1-88	主人公が好意を抱く相手と空中庭園展望台でデートをする。
紀海音(1663-1742)		墓所	宝樹寺(東大阪市)	江戸中期の浄瑠璃作者。鯛屋貞柳の弟。豊竹座の座付作者で、竹本座の近松門左衛門とライバルであった。
木下昌輝(1974-)	天下一の軽口男	米沢彦八顕彰碑	生国魂神社(天王寺区)	2019年「大阪ほんま大本大賞」受賞作。上方落語の祖を描く。碑の建立は五、六代目笑福亭松鶴の悲願であり、弟子の仁鶴らが実現。
紀上太郎(1747-1799)		墓所	西方寺(天王寺区)	江戸中期の浄瑠璃作者、狂歌師。芸能においては作者としてのみならず支援者としても精力的に活動した。
紀貫之(872？-945？)		歌碑	光明寺(西淀川区)	同寺に貫之の先祖である武内宿禰の墓がある。「ふる雪に 木々の梢を ながむれば しろたえなれや みてくらのしま」。出典不明。
		歌碑	田蓼神社(西淀川区)	神楽歌にもある田蓼の島の地に建つ。「雨により田蓼の島を今日ゆけば名には隠れぬものにぞありける」。
玉雲斎貞右(1734-1790)		墓所	一心寺(天王寺区)	混沌軒国丸。江戸中期の狂歌師。1300人以上の門人があり、佐藤魚丸、鉄格子波丸らを輩出。
鯨統一郎(?-)	大阪城殺人紀行	金明水の井戸	大阪城天守閣前(中央区)	主人公の歴女トリオが観光で訪れ、「井戸の底に金塊が沈む」という伝説について語る。
		梅林	大阪城公園(中央区)	歴女トリオが金塊窃盗事件の容疑者二人の死体を発見する。
杳沢久里(1932-)	通天閣の消えた町	通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	戦後、大阪に帰ってきた主人公の晶子は新世界のシンボル通天閣の消滅に驚く。
	おとうと	造幣局	大阪市北区天満1-1-79	晶子は亡き弟・健一を思い出しながら桜の通り抜けに参加する・
熊谷直好(1782-1862)		墓所	西念寺(天王寺区)	江戸後期の歌人。岩国藩士であったが脱藩し、京都や大阪において和歌に専念したとされる。
黒岩重吾(1924-2003)	通天閣	通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	雄太と定吉は幼少期に初代通天閣のてっぺんから小便をした。大人になった雄太は二代目通天閣完成の日にそれを見に行く。
	落葉の炎	通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	主人公の啓文は、不本意に別れることとなった不二が働く託児所を訪れ、夜に改めて通天閣の下で再会する。
黒川博行(1949-)	爪の垢、赤い	大阪球場	現・なんばパークス(浪速区)	南海ホークスの本拠地。主人公の刑事「黒マメコンビ」は取り壊し直前の球場前を通りホークスについて会話する。
契沖(1640-1702)		円珠庵跡、墓	鎌八幡(天王寺区)	『万葉代匠記』の作者、晩年に当地に隠居。墓は通常非公開。
		契沖供養塔、母の墓	妙法寺(東成区)	契沖は1679-1690の11年間、妙法寺で住職を務めた。
		井戸、歌碑、住居跡	和泉市久井町	契沖が暮らしていたという説がある。
		国学発祥の地碑	石尾中学校正門前（和泉市）	契沖は現在の和泉市で国学の研究に打ち込んだ。
		養寿庵跡	和泉市万町	「歌碑」「僧契沖住居跡」の石碑と文字が風化した石碑の計3本。
食満南北(1880-1957)		句碑	相合橋北詰(道頓堀)	初代中村鴈治郎の座付作者。随筆や批評も数多く執筆。「盛り場をむかしに戻すはしひとつ」。
		句碑	南宗寺(堺市)	南北は堺区櫛屋町出身であり、同碑は没後の昭和34年建立。「昔堺に男ありけり夏まつり」。
		道標碑	妙国寺前(堺市)	堺事件の土佐藩士たちが切腹したことを示す「とさのさむらいはらきりのはか」の字を書いた。
河野多恵子(1926-2015)	汐見橋	汐見橋駅	浪速区桜川3-8-74	河野は汐見橋北詰周辺に住んでおり、大阪府女専へと同駅から南海高野線で通学した。
後藤比奈夫(1917-2020)		句碑	大阪天満宮星合池(北区)	後藤夜半の息子。父の後を継ぎ「諷詠」を主宰。「秋思祭　すみしやすらぎ　月にあり」。
後藤夜半(1895-1976)		句碑	大阪天満宮大將軍社脇(北区)	高浜虚子に師事。「諷詠」を主宰。船渡御を詠んだ「人形の　宿禰はいづこ　祭舟」。
		句碑	箕面の滝(箕面市)	滝を詠んだ句の最高峰とされ、「ホトトギス」巻頭にも選ばれた。「瀧の上に水現れて落ちにけり」。
小西来山(1654-1716)		十萬堂跡の碑	浪速区恵美須西2-1	談林派の代表的歌人である来山の晩年の住居跡。建物は戦災で焼失した。
		墓所、句碑	一心寺(天王寺区)	十萬堂から一心寺を眺望して詠んだ「時雨るや しぐれぬ中の 一心寺」が刻まれている。
		墓所、句碑	海泉寺(浪速区)	こちらには夫妻で眠る。
		句碑	大阪天満宮北門付近(北区)	「夜の明けて 尾花大きく 成れにけり」、大阪各所に文人の句碑を建立する小谷省三による碑。
		句碑	今宮戎神社(浪速区)	「薨の 雨天にしぼむ 是非もなし」の句。
		句碑	西区新町1	四ツ橋の跡に鬼貫句碑と共に設置されている。「涼しさに 四橋を四つ 渡りけり」来山の句ではないとの説もある。
小林一茶(1763-1828)		句碑	大念仏寺(平野区)	一茶は同寺を訪れ、万部法会を見たことを「春風や 巡礼どもが 練供養」と詠んだ。
		句碑	道明寺天満宮(藤井寺市)	一茶は1795年に同地を訪れ、「青梅や 餓鬼大將が 肌ぬいで」と詠んだ。榊莫山が揮毫。
		句碑	玉手山公園(柏原市)	道明寺天満宮に詣でた後に、同地を訪れ詠んだ2句が「西国紀行」から選出されている。
		句碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「痩せ蛙　負けるな一茶　是にあり」。
小林信彦(1932-)	オヨヨ島の冒険	万博会場	吹田市千里万博公園1-1	主人公は悪人に追いかけられ設営中の万博会場に逃げ込む。せんい館、お祭り広場などが登場。
小松左京(1931-2011)		墓所	瀧安寺(箕面市)	星新一、筒井康隆と共に「SF御三家」として活躍。ドーム状の墓石。
	日本アパッチ族	大阪砲兵工廠	大阪城～大阪ビジネスパーク	砲兵工廠跡を拠点に食鉄人アパッチ族が繁栄し、騒動を巻き起こす。
	大阪万博奮闘記	万博記念公園	吹田市千里万博公園1-1	万博委員としての著者の奮闘を回想する。

今東光(1898-1977)		紫雲山天台院	八尾市西山本町2丁目5-8	今和尚が特命住職として在籍。『東光太平記』碑。
		今東光資料館	八尾市立図書館3階	文献、映像資料、略年譜などを展示。
	お吟さま	千利休屋敷跡	堺市堺区宿院町西1丁17-1	1957年直木賞受賞作。千利休の娘の悲恋を描く。
西行(1118-1190)		墳墓、西行記念館、歌碑、西行塚	弘川寺(河南町)	同地で西行が没しており、境内には西行に関する様々な見所がある。
		江口の君堂、歌碑	寂光寺(東淀川区)	西行が同地において問答歌を交わした遊女が仏門に入り、同寺を創建したと伝えられる。
		涙池(現・小松児童公園)	東淀川区小松2-12	西行はかつて当地にあった景清と大日坊の伝説に感動し、「よしさらば涙の池に身をなして心のままにつきやどるらむ」と詠んだ。
斎藤栄(1933-)	関西国際空港殺人事件	関西国際空港	泉佐野市泉州空港北 1	「タロット日美子」シリーズ。日美子は友人カップルの運勢を同空港のキャニオンにて占う。
		滝見小路	梅田スカイビル(北区)	昭和初期を再現したレトロな飲食街。刑事が容疑者を尾行中に第三の殺人が発生する。
坂井希久子(1977-)	泣いたらアカンで通天閣	通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	新世界北詰通商店街の「ラーメン味よし」のゲンコとセンコ物語。センコは自身を鼓舞したいときは通天閣にのぼる。
阪田寛夫(1925-2005)	サっちゃん	歌碑	南大阪幼稚園(阿倍野区)	阪田は同幼稚園の2期生であり、一学年上の女兒をモデルに『サっちゃん』を作詞したとされる。
佐久良東雄(1811-1860)		歌碑	市立美術館前(天王寺区)	佐久間象山と並ぶ歌人志士と称される。碑は乃木希典の揮毫。
		寓居跡碑	坐摩神社(中央区)	弘化四年に同神社の神官と知り合い、境内に居を定めて国文学や和歌を講じた。
佐藤魚丸(1752-1821)		墓所	安養寺(西成区)	江戸後期の戯作者、狂歌師。蝙蝠連というグループのリーダーとして活躍。
三田浄久(1608-1688)		墓所	妙福寺(北区)	江戸前期の俳人。西鶴とも交流。柏原で廻船業も営んだ。同寺の創建者・廣演院日容は浄久の甥。
椎名麟三(1911-1973)	神の道化師	中之島公園	北区中之島1-1	自伝小説。母へ仕送りをしなくなった父のところへ金をもらいに行った帰りに中之島公園で一晩の野宿をする。
椎本才麿(1656－1738)		墓所	四天王寺(天王寺区)	江戸中期の俳人。西鶴、宗因に師事。芭蕉、来山とも交流。無縁墓中の「旧徳翁 梅門家居」が才磨の墓とされる。
似雲(1673-1753)		墓所、歌碑	弘川寺(河南町)	西行を慕い、「今西行」とも呼ばれた歌人。墓は西行塚の脇にある。「尋ねて袖に涙のかかるかな弘川寺に残る古墳」。
志貴皇子(?-716)		歌碑	阪急吹田駅前(吹田市)	「石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりにけるかも」。
		歌碑	垂氷神社(吹田市)	平成の即位記念に設置。「石走る垂水の上の早蕨の萌え出づる春になりにけるかも」。
志太野坡(1662-1740)		墓所	四天王寺(天王寺区)	北墓地の西南隅に芭蕉翁墓とともにある。宝暦12年に弟子の湖白庵浮風が建立。
		墓所	宝国寺(天王寺区)	松尾芭蕉の高弟「蕉門十哲」の一人。門人たちが建立。
十返舎一九(1765-1831)	東海道中膝栗毛	高津宮	中央区高津1-1-29	弥次喜多が境内の高みから大阪の眺望を楽しむ。
柴崎友香(1973-)	その街の今は	大丸心斎橋店	中央区心斎橋筋1-7-1	ヴォーリズによる大阪を代表する名建築。主人公は古い写真で過去と現在の心斎橋に思いをはせる。
司馬遼太郎(1923-1996)		西長堀アパート	西区北堀江4	司馬は『竜馬がゆく』を執筆した時期に同アパートに住んでいた。
		司馬遼太郎記念館	東大阪市下小阪3-11-18	司馬の自宅と隣接する安藤忠雄設計の建物から成る。約2万冊の蔵書が収められた大本棚が圧巻。
		喫茶美術館	東大阪市宝持1-2-18	司馬が命名した喫茶店。「街道をゆく」挿絵の須田剋太の絵などの様々な美術品が置かれており、司馬もしばしば訪れていた。
		齡延寺	天王寺区生玉町13-31	司馬は大阪外国語学校モンゴル語学科の仲間と共に参禅したとされる。
	大阪城公園	JR大阪城公園駅	大阪市中央区大阪城 3	1983年に大坂城築城400年にあわせて同駅が開業したことの記念の詩を写したレリーフがある。
	二十一世紀に生きる君たちへ	文学碑	中小阪公園(東大阪市)	司馬が小学六年生の教科書向けに著した文章。記念館開設に伴う街づくりの一環として設置。
	花神	大村益次郎殉難碑	大阪医療センター南東角(中央区)	益次郎が京都で襲撃された傷の治療を行った大阪医学校付属病院が同地にあった。
	庄兵衛稲荷	銀山寺	天王寺区生玉寺町6-26	気儘人・猿霞堂庄兵衛を祀った祠が同寺にあるとされる。
	一夜官女	野里住吉神社	西淀川区野里1-15-12	同社の神事・一夜官女の祭礼の日に、官女役を務める小若は岩見重太郎と出会う。
下河辺長流(1627-1686)		墓所	鎌八幡(天王寺区)	『万葉集管見』を著した国学復古の先駆者。契沖の師。墓は通常非公開。
庄野英二(1915-1993)	星の牧場	文学碑	帝塚山学院大学(大阪狭山市)	児童文学者。弟に庄野潤三。帝塚山学院大学初代学長。同作は複数の児童文学賞を受賞。
	帝塚山風物詩	帝塚山古墳	住吉区帝塚山西2-8-5	帝塚山という地名の由来となった古墳。幼少期の庄野が帽子とりや戦争ごっこで遊びまわった。
庄野潤三(1921-2009)	水の都	中之島公園	北区中之島 1 -1	北久太郎町の紙屋の丁稚・内田さんは夜な夜な店を抜け出し仲間たちと中之島公園で運動したと回想する。
		大阪市中央公会堂	北区中之島1-1-27	岩本栄之助の出資により建設された名建築。主人公は岩本の親戚筋にあたる女性から当時の話を聞き、岩本の事績に思いを馳せる。
	プールサイド小景	帝塚山学院のプール	住吉区帝塚山中3-10-51	プールに泳ぎに来る親子の描写で物語は始まる。作中の電車は南海高野線。初代学長の庄野貞一は潤三の父。
蜀山人(1749-1823)		歌碑	住吉大社(住吉区)	大田南畝。住吉大社には六度訪れている。大海神社境内に建つが風化が著しく判読は非常に困難。
		銅座の跡碑	愛珠幼稚園前(中央区)	江戸時代に銅を管理した。蜀山人は銅座に勤務していた。
		平安堂近松翁墓碣	妙法寺(大東市)	蜀山人の近松門左衛門墓に関する文章を刻んだ碑。近松の墓の隣に建てられている。
城山三郎(1927-2007)	黄金の日々	呂宋助左衛門像	大浜公園(堺市)	堺の伝説の貿易商。『黄金の日々』のドラマ化に際して建立。
菅専助(?-?)	摂州合邦辻	合邦辻閻魔堂	浪速区下寺3-16-11	専助は豊竹光太夫として太夫を務めた後、作者に転向。作中で閻魔堂は「合邦」という名の人物が建立したという設定。

薄田泣菫(1877-1945)	金剛山の歌	歌碑	東平北公園(中央区)	岡山出身の詩人。コラムニストとしても「茶話」で有名。同地を散歩コースとしていたという。
	鷺草	顕彰碑	本長寺(中央区)	明治三十四年、泣菫は同寺に寓居し「小天地」を編集しながら「行者のやうな寂しい生活」をしたと語る。
		心齋橋筋	大阪市中央区	泣菫は心齋橋筋を大阪の「脊髄」であると語り、通らなければ大阪にいる気がしないとする。
		井原西鶴墓	誓願寺(中央区)	明治三十四年、泣菫は西鶴の墓を訪ね雑草を抜きつつ『好色五人女』に思いを馳せた。
鈴木六林男(1919-2004)		句碑	大威徳寺(岸和田市)	山滝村(現・岸和田市)出身の歌人。牛瀧山において詠んだ「瀧壺を出でずに遊ぶ水のあり」。
瀬川露城(1851-1928)		句碑	経王寺(堺市)	明治の俳人。芭蕉翁墓の傍らに建つ。「はせを翁の文塚を拝するとき」「折からの経よみどりの老音かな」。
鯛屋貞柳(1654-1734)		墓所	光伝寺(天王寺区)	職業的狂歌師の先駆け。太田蜀山人らに影響を与えた。弟は紀海音。
		墓所	清水寺(天王寺区)	無縁墓内にあるが、字はほぼ読めない。
高木石子(?-?)		句碑	住吉大社(住吉区)	俳人。中村若沙の後任として俳誌「いそな」を編集。「住吉の松にちりばめ初霰」。
高階春帆(1825-1906)		墓所	伊勢寺(高槻市)	幕末・明治期の詩人。藤井竹外の門人であり、竹外の門人を集め竹外吟社を結成した。
高田郁(1959-)	銀二貫	大阪天満宮	北区天神橋2－1－8	第1回大阪ほんま本大賞受賞作。天満の寒天問屋・井川屋は天満宮に銀二貫を納めるため奮闘する。
		天神橋筋	北区～中央区	主人公・松吉は商いのために日々天神橋を渡る。作中で頻繁に登場する。
高殿円(1976-)	グランドシャトー	グランシャトー	都島区東野田町3-9-3	リリアンのCMで有名なレジャービル。同ビルの「ナイトクラブ香蘭」の閉店が執筆のきっかけの一つ。
高野素十(1893-1976)		句碑	明王院(岸和田市)	茨城県出身の俳人。誓子、青畝、秋桜子と「ホトトギスの四S」と称された。「旅人に久米田の池も日短か」。
高橋虫麻呂(?-?)		歌碑	近鉄河内国分駅前(柏原市)	河内大橋を渡る女性への恋心を歌った「大橋の頭に家あらばうら悲しくひとり行く兎に宿貸さましを」。
高浜虚子(1874-1959)		句碑	東光院(豊中市)	「おもひおもひに坐りこそすれ萩の縁」「我のみの菊日和とはゆめ思はじ」。前者は虚子が吟行で訪れた際の奉納句。
		三代句碑	忠岡神社(忠岡町)	高浜虚子、高浜年尾、稲畑汀子の親子三代の句碑。「大汐干　句会の船を　五六艘」。
高浜年尾(1900-1979)		三代句碑	忠岡神社(忠岡町)	高浜虚子、高浜年尾、稲畑汀子の親子三代の句碑。「その昔よりの　千鳥の洲なるべし」。
宝井其角(1661-1707)		墓所	瑞龍寺(浪速区)	芭蕉の高弟。隣には芭蕉墓もある。
		句碑	和光寺(西区)	「仇なりと花に五戒のさくらかな」。
		句碑	土佐稻荷神社(西区)	其角が吉野山で詠んだ句、『五元集』に掲載されている。「明星や　桜さだめぬ　山かづら」。
		句碑	大信寺(八尾市)	河内の名物を詠んだ「うすら氷やわづかに咲る芹の花」。
滝瓢水(1684-1762)		墓所	持明院(天王寺区)	江戸中期の俳人。松木淡々に師事。播磨国の裕福な船問屋の出だが一代で没落させた。
武内確斎(1770-1826)		墓所	伝長寺(天王寺区)	江戸時代の戯作者。代表作『絵本太閤記』が大ヒット。墓は題字が頼山陽、撰文が篠崎松竹。
竹田出雲二世(1691-1756)		墓所	青蓮寺(天王寺区)	『義経千本桜』などの傑作を生み出した文楽作者。同寺に先代出雲の墓もあると考えられるが、戦災で過去帳が失われており不明。
武田麟太郎(1904-1946)	井原西鶴	文学碑	誓願寺(中央区)	誓願寺は西鶴の墓所でもある。
	若もの	大阪市中央公会堂	北区中之島1-1-27	中央公会堂で東京左翼劇場と大阪戦旗座合同の「機関車」が上演される。
高市黒人(?-?)		歌碑	深江稻荷神社（東成区）	「四極山うち越え見れば笠縫の島漕ぎ隠る棚なし小舟」。四極山の位置ははっきりしないが、同地周辺と考えられている。
田中金峰(1844-1862)		墓所	妙寿寺(中央区)	夭折した天才漢詩人。没後『大阪繁昌詩』刊行。
田中啓文(1962-)	鍋奉行犯科帳	西町奉行所跡碑	マイドームおおさか前(中央区)	西町奉行所に赴任した鍋奉行こと大邊久右衛門が食に対する情熱を活かして難事件を解決する。
田辺聖子(1928-2019)		田辺聖子文学館	大阪樟蔭女子大学(東大阪市)	国文科OGである田辺の資料を展示。
	種貸さん	種貸社(住吉大社)	住吉区住吉2-9-89	早く子供が欲しいと焦る主人公は知人から教わった種貸社にお参りをして土人形を授与される。
	苺をつぶしながら	長崎堂	中央区心齋橋筋2-1-29	長崎カステラの名店。作中において同店の名物「クリスタルボンボン」が登場する。
	当世てっちり事情	太左衛門橋	中央区宗右衛門町7-19	元ラジオプロデューサーの鈴木は元妻でフリーアナウンサーのしん子と太左衛門橋で偶然再会し、二人でてっちりを食べる。
	夢のように日は過ぎて	たこ梅	中央区道頓堀1-1-8	主人公と同僚が恋愛について語りあう。作者である田辺も実際に通っていた。
	コンニャク八兵衛	源九郎稻荷	源聖寺坂、生國魂神社(天王寺区)	源聖寺坂にはかつてコンニャク好きの狸の八兵衛が祀られていた。現在は生國魂神社に移転。
	薔薇の雨	丸福珈琲店千日前本店	中央区千日前1-9-1	昭和九年創業の老舗。新世界から同地へ戦後に移転してきた。主人公と恋人の行きつけの店。
	ほっこりぱくぱく上方さんば	海遊館	港区海岸通1-1-10	田辺は海遊館という名前を気に入っており、「館」の部分が良いとする。「海遊館」は一般公募の中から選ばれたものである。
谷崎潤一郎(1886-1965)		菊原琴治墓所	四天王寺(天王寺区)	生田流琴曲の大家。谷崎邸に出稽古をしていた。墓の碑文は谷崎によるもの。
	春琴抄	文学碑	少彦名神社(中央区)	道修町を舞台にした谷崎の代表作。碑の文字は、谷崎邸への出稽古に父菊原琴治検校の手を引いて通った菊原初子。
	蓼食う虫	文学碑	国立文楽劇場西側(中央区)	作中、登場人物が文楽『心中天網島』の「河庄」を観賞することにちなむ。東側には近松の碑。
	吉野葛	信太森葛葉稻荷神社	和泉市葛の葉町1-11-47	主人公の友人である津村は幼少期に母と死別し、その面影を探して「葛の葉」伝説のある信太の森を訪れる。
	蘆刈	水無瀬神宮	三島郡島本町広瀬3-10-24	主人公は後鳥羽院の離宮があった水無瀬を散策し、出会った男性からある女性への親子二代にわたる思慕の物語を聞く。

種田山頭火(1882-1940)		句碑	聖天宮西江寺(箕面市)	昭和十一年に山頭火は同寺の句会に参加し、他の参加者との交流を楽しんでいる。「みんな洋服で私一人が法衣で雪がふるふる」。
丹比真人乙麻呂(?-?)		歌碑	峰塚公園(羽曳野市)	峰ヶ塚古墳を中心とした公園。「霞立つ野の上の方に行きしかばうぐひす鳴きつ春になるらし」。
田村木国(1889-1964)		句碑	東光院(豊中市)	俳人。新聞記者でもあり朝日新聞において「全国中等学校優勝野球大会」設立にも関わる。「狩くらは大月夜なり寝るとせん」。
団鬼六(1931-2011)	大穴	北浜の金融街	中央区北浜	大学生相場師・大崎恭太郎は製紙会社乗っ取りの動きを察知し北浜を舞台に大勝負に出る。
近松秋江(1876-1944)	青草	住吉公園	住之江区浜口東1-1-13	主人公は女性と共に住吉公園から鳥居へと歩く。住吉の高燈籠や桜の花が描かれる。
近松半二(1725-1783)	傾城阿波鳴門	お弓、おつるの像	どんどろ大師善福寺(天王寺区)	生き別れになった母子がこの地で再会を果たす。
近松門左衛門(1653-1725)		墓所	中央区谷町8-1	元々、法妙寺境内にあったが、同寺は1967年に大東市に移転。近松墓は国史跡であり現地保存が義務付けられていたため同地に残された。
		墓所	妙法寺(大東市)	上記の事情から近松の元の墓は移転できず、新たに供養墓を建立している。
		顕彰碑	松乃木大明神(西成区)	同神社には、文楽に欠かせない三味線の材料となる猫を祀る猫塚もある。
		浄瑠璃神社	生国魂神社(天王寺区)	近松や竹本義太夫ら文楽に貢献した人々を祀る。
		竹本座跡碑	中央区道頓堀1-8	竹本義太夫が開き、近松が座付作者であった人形浄瑠璃小屋。碑はTSUTAYA前にひっそりと建つ。
	心中重井筒	文学碑	国立文楽劇場東側(中央区)	昭和59年の国立文楽劇場開館を記念し設置。西側には谷崎の碑。
		相合橋	中央区道頓堀1-7-7	架橋当時は中橋、新中橋と呼ばれていた。橋の北詰の茶屋「井筒屋」の新七、遊女お島の悲恋を描く。
	冥途の飛脚	梅川忠兵衛 ゆかりの淡路町碑	中央区淡路町3-4 吉野寿司前	主人公忠兵衛は淡路町の飛脚問屋の養子。淡路町の名を残すために吉野屋嘉助が建立。
		梅忠ノ碑	城南町東神津公園向かい(天王寺区)	飛脚の亀屋忠兵衛は遊女梅川のために公金を横領し牢死、梅川も入牢。碑は安政年間に片岡仁左衛門が建立。
	心中天網島	おさん墓	安養寺(西成区)	夫の治兵衛に貞節を尽くした女性。治兵衛が遊女小春と心中後、同寺の尼となったという説もあるが信憑性は低い。
		小春・治兵衛比翼塚	大長寺(都島区)	小春と治兵衛の心中墓。同寺は以前は現・藤田美術館の場所にあったが、現在の場所に移転し、碑も同時に移転。
		元桜橋南詰碑	堂島アバンザ北側(北区)	かつて蜷川に架かっていた橋。小春と治兵衛が命を絶つ前の道中に通った。
		河庄跡碑	北区曽根崎新地6	紀伊国屋小春がよく呼ばれた茶屋「河庄」がここにあった。
	心中宵庚申	お千代・半兵衛墓	銀山寺(天王寺区)	心中したお千代と半兵衛夫婦の墓。紀海音も同事件を元ネタとして「心中二つ腹帯」を発表している。
	女殺油地獄	栴檀木橋	北区中之島1～中央区北浜2	豊島屋お吉を殺害した河内屋与兵衛がここから土佐堀川に凶器を捨てた。現在の橋は昭和60年に架けられた。
	曽根崎心中	露天神社(お初天神)	北区曽根崎2-5-4	醤油商平野屋久右衛門の手代徳兵衛と遊女お初が境内の森の中で心中。境内には二人のブロンズ像がある。
		お初墓	久成寺(中央区)	お初が勤める天満屋が同寺の檀家であったとされる。現在の墓は近年再建されたもの。
	曽根崎心中/ひじりめん卯月の紅葉	文学碑	玉造稻荷神社(中央区)	玉造の地が登場する近松の二作の本文が一つの碑に刻まれている。
近松やなぎ(1762-1803)		墓所	大宝寺(天王寺区)	『絵本太功記』作者。近松半二、二代目並木千柳に師事したことから両者の名をとって「近松やなぎ」と名乗った。
筒井康隆(1934-)	意識の牙	淀屋橋	北区中之島1	未発表の幻の作品。編集者に没にされた腹いせに淀屋橋から土佐堀川に叩き込んだ…とされていたが、これは作り話。
	人類の大不調和	万博会場	吹田市千里万博公園1-1	大阪万博開催中、会場内に突如としてソンミ村館、ピアフラ館なる建物が出現し大騒動となる。
	私説博物誌	天王寺動物園	天王寺区茶臼山町1-108	康隆は幼少期に遠足でしばしば同園を訪問。動物学者である父の嘉隆は1945年から1946年、同園の園長であった。
津野創一(1937-1992)	響け！パーランクー	大阪城天守閣	大阪市中央区大阪城 1	沖縄の若者たちによる「黒潮の会」は片町署に収監される同郷の容疑者に聴かせるため天守閣に突入しパーランクーを演奏する。
坪内逍遙(1859-1935)	桐一葉	市正曲輪	大阪城公園(中央区)	大坂の陣に際し、豊臣と徳川の間で悩む且元を描く。市正曲輪は且元の屋敷があった場所。
津村記久子(1978-)	ワーカーズ・ダイジェスト	中之島公園	北区中之島 1 -1	名字も年齢も生年月日も同じ二人は中之島公園で偶然に再開する。
	エヴリシング・フロウズ	IKEA鶴浜	大正区鶴町2-2-4-55	主人公や友人がしばしば同所を訪れる。主人公の友人が裏手の広場でリンチを受ける。
		めがね橋(千本松大橋)	大正区～西成区	巨大なループ橋。主人公らが訪れ写真を撮ったり絵を描いたりする。
津守国基(1026-1102)		薄墨社	住吉大社(住吉区)	住吉大社39代神主、歌人。社名は「薄墨に書く玉章と見ゆるかな霞める空に帰る雁がね」の歌に由来。
鶴彬(1909-1938)		句碑	大阪城公園豊国神社東側(中央区)	反戦川柳作家。同地に存在した大阪衛戍監獄服役中に赤痢で死去。「暁をいだいて闇にゐる蕾」。
鉄格子波丸(?-1811)		鉄格子歌墳	高津宮(中央区)	江戸時代の立売堀の狂歌師。本業は鉄問屋。
堂垣園江(1960-)	浪華古本屋騒動記	大阪古書会館	中央区粉川町4-1	作中に登場する「浪華古書会館」のモデルと考えられる。大阪府古書籍商業協同組合の建物。
峠三吉(1917-1953)	にんげんをかえせ	詩碑	岡町図書館前(豊中市)	豊中出身の詩人。1945年8月6日に広島市内で被爆し、詩を通して平和を訴え続けた。
富坂賢太郎(1891-1962)		歌碑	長安寺(淀川区)	兵庫県出身の歌人。「あけび」を編集。「扉をあけて阿弥陀如来もみそなはせうき世の春の花のさかりを」。
豊田有恒(1938-)	酷憂鉄道	新大阪駅	淀川区西中島5-16-1	増長に増長を重ねた酷憂鉄道は国民から見放され荒廃しつくし、新大阪駅は「幽鬼の棲家」のようになった。
直木三十五(1891-1934)		直木三十五記念館	中央区谷町6-5-26	地域住民が運営する「萌」の2階。直木の自筆原稿などが展示され、歴代直木賞受賞作品を自由に読める。
	南国太平記	文学碑	中央区安堂寺町2	薩摩藩のお家問題を題材とした直木の代表作の名場面。隣には榎大明神の社。
長沖一(1904-1976)		墓所	妙経寺(中央区)	放送作家として数々の名番組を手掛けるとともに、『辻馬車』に参加し小説も執筆。

永尾宋斤(1888-1944)		句碑	東光院(豊中市)	石井露月に師事し、「早春」を主宰。「早春や 枯れたるものに 光りあり」。
中島らも(1952-2004)		伏見ビル	中央区伏見町2-2-3	大正12年にホテルとして建設、昭和からはテナントビル。中島はオフィスを構えていた。
	西方冗土 カンサイ帝国の栄光と衰退	中之島公園	北区中之島1-1	中島はプロムナードのタコ焼き屋の「おいしいタコヤキ、二百円でどやっ!?’という張り紙に圧倒されたと述べる。
		ブラックバード	淀川区東三国1-32-9	スロット専門店。店舗上に巨大な自由の女神像が建っており、中島はそれを見て「…あ…」と思わず言ったという。
	なにわのアホぢから	中之島公園	北区中之島1-1	地球を壊滅させる力を持つ「秘孔」が中之島公園の亀田留吉老人の売店下に存在すると明らかになる。
		○△□焼 富紗家本店	中央区谷町6-14-19	有名人も多く来店する老舗。中島、竹中直人、鮫肌文殊が個性派飲食店の「除霊」行脚の一環として訪れる。
なかにし礼(1938-2020)	てるてる坊主の照子さん	文学碑	池田城跡公園(池田市)	同市を舞台とした母と四姉妹の成長物語。NHK朝ドラ「てるてる家族」放送を記念して建立。
中場利一(1959-)	岸和田少年愚連隊	岸和田市立春木中学校	岸和田市松風町10-65	主人公チュンバアらは日々上級性や同級生たちと抗争に明け暮れる。
		岸和田競輪場	岸和田市春木若松町22-38	チュンバアらの間では教員にばれないように「若松病院」の隠語で呼ばれる。
中村若沙(1894-1971)		句碑	住吉大社(住吉区)	高浜虚子の門弟。俳誌「いそな」を主宰。「初夢のあまたの歌の神に逢ふ」。
長皇子(?-715)		歌碑	住吉区安立町2-2	昭和55年、町役場の後に、各所に散在していた霞松原関連の碑を市民の寄付で集結させた。
夏目漱石(1867-1916)		大阪市中央公会堂	北区中之島1-1-27	漱石は明治四十四年来阪し、八月十八日に「文藝と道德」について講演を行った。時期的に先代の公会堂と考えられる。
	中味と形式	妙國寺	堺市堺区材木町東4-1-4	明治44年に堺を訪れた漱石は、かつて同寺を訪れ有名な蘇鉄を探したと回想している。
難波利三(1936-)		大阪ガスビル	中央区道修町4-2-41	若い頃にガスビルの壮麗な風貌に圧倒され入れなかった難波は、後に講演で呼ばれ初めて入った時に感慨を覚えたという。
	てんのじ村	てんのじ村記念碑	西成区山王町1	1984年直木賞受賞作。芸人村の人間模様。碑は金網で囲まれており見づらい。
	漫才狂騒曲			一八芸能社社長にネット(出演料)を博打で巻き上げられた弟子のために時造は掛け合いに行く。
	通天閣高い			「通天閣高い、高いは煙突…」の言葉遊びが口癖の津八子のもとに、ホステスと駆け落ちをした夫の正馬が帰ってくる。
	漫才酔狂伝			てんのじ村で生まれ、現在は相方と喧嘩別れの漫才師・淀川源氏は後継者育成に奔走する。
	てんのじ村赤い			源次と桃代は市大病院が見える長屋の二階に暮らす。作中には記念碑そのものも登場する。
		成田山新勝寺	寝屋川市成田西町10-1	曲芸中の事故で半身不随になった源次は先輩からの勧めで同寺で毎年8月15日に開催される笑魂まつりに出演する。
	漫才日和	天王寺動物園	天王寺区茶臼山町1-108	妻に先立たれた夫婦漫才師の久平は動物園のゴリラの檻の前で一人で漫才を演じ、周囲から気味悪がられる。
	故障車の女	大阪城天守閣	大阪市中央区大阪城 1	ある事件に巻き込まれたうえに恋人にふられた主人公は傷心をいやすために天守閣へ登る。400年祭の情景が描かれる。
並木五瓶初世(1747-1808)		墓所	四天王寺(天王寺区)	江戸時代の歌舞伎作者。並木正三の弟子。代表作の『五大力恋緘』は空前の大ヒット。30代後半からは江戸で活躍した。
	五大力恋緘	五大力の墓	浄祐寺(北区)	遊女をめぐるっての5人殺傷事件犠牲者の墓がある。この事件が『五大力恋緘』の元となった。
並木宗輔(1695-1751)		墓所	本覚寺(枚方市)	初代並木千柳。並木の姓を持つ浄瑠璃・歌舞伎作者の祖。竹田出雲、三好松洛らとの合作で「仮名手本忠臣蔵」など。
西加奈子(1977-)	通天閣	通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	クライマックスにおいて主人公である二人の男女の人生が通天閣で交差する。
	地下の鳩/タイムカプセル	三津寺筋	中央区心斎橋筋 2	作品の主な舞台となり、周辺で水商売に従事する吉田、ミミィ、杉浦らが行き来する。
	タイムカプセル	ビッグマン	北区芝田1-1-3	梅田の待ち合わせの定番スポットである大型ビジョン。ミミィがこの前で周囲の人々を観察する。
西田当百(1871-1944)		句碑	法善寺横丁の正弁丹吾亭前(中央区)	岸本水府と共に番傘川柳社を結成し「番傘」を発行。「上かん屋　へいゝゝと　さからはず」。
西山宗因(1605-1682)		向栄庵跡	大阪天満宮正門前(北区)	談林派総帥として西鶴、来山、鬼貫らを輩出した宗因の住居跡。天満宮連歌所宗匠であった。
		句碑	大阪天満宮えびす門脇(北区)	「宵のとし雨ふりける元旦に一に梅花　浪華津に　さく夜の雨や 花の春」。
		句碑	大阪天満宮白米稻荷神社(北区)	2007年に宗因生誕400年を記念し建立。「なかむとて 花にもいたし 首の骨」。
		句碑	清滝天満宮(四条畷市)	「なかむとて 花にもいたし 首の骨」。松尾芭蕉、松永貞徳の句も刻まれている。
		墓所	西福寺(北区)	元禄元年七回忌頃のもの。鬼貫の「宗因は　春死なれしが　秋の塚」とはこの地のことだと思われる。
額田王(?-?)		歌碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る」。
能因(988-?)		能因塚	高槻市古曽部町3	平安中期の歌人であり中古三十六歌仙の一人。同所は能因の墳墓とされ、高槻藩主・永井直清による顕彰碑も達つ。
野坂昭如(1930-2015)	アメリカひじき	中之島公園	北区中之島1-1	戦後、主人公は中之島公園で女性をアメリカ兵に紹介する小銭稼ぎを行っていたことを回想する。
	ラ・クンパルシータ	千林駅前	旭区千林 1	常軌を逸した食への執着を持つ主人公は千林の闇市に出入りするようになる。
	エロ事師たち	千林商店街	旭区千林 1	エロ写真やブルーフィルム販売を生業にするスブやんたちが千林界限を中心に活動する。
野村泊月(1882-1961)		句碑	箕面の滝(箕面市)	高浜虚子に師事したホトトギス派の俳人。碑は昆虫館手前にある。「椎の花八重立つ雲の如くにも」。
		墓所、句碑	梅林寺(豊中市)	「夏の日を淡しと思う額の原」。
萩原広道(1815-1864)		墓所	妙壽寺(福島区)	江戸時代の歌人、国学者。源氏物語の研究を行った。
白縁斎梅好(1737-1805)		歌碑	三光神社(天王寺区)	江戸の狂歌師。六々閑人、蕪村の句と共に刻まれている。「願かけるくくわんほどく真田山穴のあくまで神をいのらん」。

蓮見恭子(1965-)	たこ焼きの岸本	粉浜商店街	住之江区	個性豊かな登場人物によって様々な人間模様が繰り広げられる住吉島居前商店街のモデル。
長谷川幸延(1904-1977)		句碑	法清寺(北区)	かしく二二五忌に牧村史陽らが建立。「酒の咎　引き受け申しそろ　かしく」。
	法善寺横町	法善寺横丁	中央区難波1	法善寺周辺の情景を描写した作品。「法善寺横丁」という語を定着させたのは幸延だとされる。
	新世界通天閣	通天閣	浪速区恵美須東1-18-6	俳優の木村は思い出深い東京の川上音二郎像、大阪の通天閣が金属供出で姿を消すと知り感慨にふける。
花屋庵奇淵(1763-1834)		墓所	宝樹寺(東大阪市)	菅沼奇淵。不二庵二柳に師事し、二柳同様に芭蕉の顕彰に努めた。隣には紀海音の墓がある。
林芙美子(1903-1951)	めし	文学碑	天王寺公園(天王寺区)	林の遺作。新世界周辺が舞台。
	大阪城	大阪城	中央区大阪城 1	天守閣に向かう道中、宮本百合子や壺井栄のこと、パリでの生活のことなどを思い出す。
日野草城(1901-1956)		大阪ガスビル	中央区道修町4-2-41	ホトトギス派の歌人。主宰誌「旗艦」の編集発行人がガスビルに勤めていた縁で、日野もしばしば訪れた。
		句碑	服部緑地(豊中市)	五句と「俳句は東洋の真珠である」という日野の箴言が記されている。
平田春一(1894-1973)		句碑	法善寺横丁の正弁丹吾亭前(中央区)	岡山県出身の歌人。若山牧水に師事。「かくばかり　鯛をくはば鯛の奴　うらみつらむか　或は否か」。
広瀬旭荘(1807-1863)		墓所	統国寺(天王寺区)	江戸時代の儒学者、漢詩人。同寺には天文学者である間長涯の墓もある。
福田紀一(1930-2015)	霧に沈む戦艦未来の城	中之島公園	北区中之島1-1	中之島が巨大な戦艦となり、中之島図書館の本を燃料として出撃する奇想天外なSF。
	神武軍、大阪へ上陸す	天満橋	北区～中央区	突如として現代に出現した神武天皇軍が淀川をさかのぼって大阪に進軍し、天満橋に到達する。
福中都生子(1928-2008)	南大阪	高燈籠	住吉公園(住吉区)	東住吉区に暮らした詩人。詩中で、住吉の歴史を教えてくれたものとして高燈籠が登場する。
不二庵二柳(1723-1803)		墓所、不二庵碣	梅旧院(天王寺区)	生涯を松尾芭蕉顕彰に捧げた俳人。芭蕉墓と隣接した自然石墓。一周忌に子息や門人が建立した碑もある。
藤井重夫(1916-1979)	風土/虹/善界	ジャンジャン横丁	浪速区恵美須東3-4-12	三作いずれもがジャンジャン横丁を舞台としており、『虹』で第53回直木賞を受賞した。
藤井竹外(1807-1866)		詩碑	高槻市野見町2-26	高槻藩の家臣であり漢詩人。酒浸りの日々を送り放浪癖のある奇人であったという。
		墓所	乾性寺(高槻市)	本堂裏山の墓地に建つ。最初に建てられた墓石は本行寺に移設された。
		墓所	本行寺（高槻市）	「竹外藤井先生」と自然石に刻まれた墓。竹外の没後六十年に際して作られた。
葛井広成(?-?)		歌碑	藤井寺市役所(藤井寺市)	藤井寺の地名は広成が建立した葛井寺に由来。「春さらばををりにををりうぐひすの鳴く我が嶋ぞやまず通はせ」。
藤沢恒夫(1904-1989)		西華山房跡顕彰碑	住吉区上住吉2-12-5	大阪文壇の中心人物であった藤沢の邸宅跡。設計は小出檐重の長男・小出泰弘。
		墓所	齡延寺(天王寺区)	南岳、東畎ら藤沢一族以外に、鍋井克之、原老柳など大阪の偉人の墓が多数ある。
		藤沢文庫	中之島図書館(北区)	藤沢の旧蔵書が寄贈されたもの。草稿、書簡など3000点以上に及び、目録も作成されている。
		一運寺	住吉区住吉2-6-23	同寺の山門は元は明治天皇の側室の屋敷の門。その後に藤沢が買い取り住んでいたが、屋敷の解体にあたり同寺が門を譲り受けた。
		洋食やろく	住吉区東粉浜3-30-16	1935年創業の洋食屋。玉子コロッケが名物。暖簾は藤沢、石濱恒夫、棋士の升田幸三の筆。
	大阪自叙伝	造幣局	大阪市北区天満1-1-79	同地で行われる「桜の通り抜け」を藤沢は残存する数少ない大阪の名物として高く評価している。
	大阪の人	大阪市立美術館	天王寺区茶臼山町1-82	藤澤は美術館やその周辺の茶臼山、天王寺公園を「大阪生まれの人間にはほのかな懐旧の思いをそそる」とする。
		中之島公園	北区中之島1-1	藤沢は同公園を、「わずかに残っている大阪の散歩道」として忘れてはならないとする。
		織田作之助墓	楞嚴寺(天王寺区)	碑文を藤沢が書き、派手好きな織田が喜ぶであろうと織田が死の床で「ロマンを発見した」と叫んだとあえて書き入れた。
藤本義一(1933-2002)		大阪ガスビル	中央区道修町4-2-41	昭和30年頃、駆け出し作家の藤本は原稿料を受け取り、食堂で食事をするのが楽しみだった。
	ライオン	天王寺動物園	天王寺区茶臼山町1-108	ジャンジャン横丁で酔っぱらった主人公がライオンの檻の中に入り込んでしまう。
富士正晴(1913-1987)		富士正晴記念館	茨木市畑田町1-51	同人誌『VIKING』を創刊。庄野潤三、高橋和巳ら多くの作家を輩出。茨木の竹林に隠棲し「竹林の隠者」と呼ばれた。
藤原家隆(1158-1237)		家隆塚、夕陽庵跡	天王寺区夕陽丘町5	五輪塔、顕彰碑、石碑、「契りあれば難波の里にやどりきて波の入日をおかがみつる哉」の歌碑
		四天王寺西門	天王寺区四天王寺1-11-18	家隆をはじめ、慈円、定家、為家など名だたる歌人が、日想観を題に歌を詠んでいる。
		夕陽岡石碑	大江神社（天王寺区）	家隆塚より愛染堂を抜けてすぐ。近くには芭蕉の句碑。
藤原定家(1162-1241)		歌碑	大依羅神社(住吉区)	境内の隅の自然石に刻まれている。「君が代は依網の杜のとことはに松と杉とや千歳栄えむ」。
藤原敏行(?-901/907)		歌碑	阿弥陀寺(住之江区)	「住の江の　岸による浪　よるさへや　夢のかよひぢ　人目よくらむ」。揮毫は作家の寺内大吉。
古川智映子(1932-)	小説土佐堀川　広岡浅子の生涯	大同生命本社	西区江戸堀1-2-1	広岡浅子が創業。社内には浅子像。ビル前には加島屋跡の碑。NHK朝ドラ「あさが来た」原作。
坊城中子(1928-)		句碑	道明寺(藤井寺市)	高浜虚子の孫、稲畑汀子の姉。「国宝を守る御寺の虫しきり」。
北条秀司(1902-1996)	王将	王将碑	通天閣下(浪速区)	伝説の棋士・阪田三吉を描く戯曲。何度も舞台化、映像化され、通天閣が効果的に使用されている。
牡丹花肖柏(1443-1527)		墓所	南宗寺(堺市)	室町中期の連歌師。宗祇よりうけた古今伝授を堺において広めた。
		墓所	大安寺(堺市)	石の供養塔。
堀晃(1944-)	梅田地下オデッセイ	梅田地下街	北区	複雑に入り組んだ梅田地下街に地上から隔絶され取り残された人々を描く。うめちかは現在では執筆当時以上に複雑化している。

本田溪花坊(1890-1987)		花の里塚	造幣局(北区)	川柳作家。「大大阪」「川柳国」を主宰。桜の通り抜けを詠んだ「大阪に 花の里あり 通り抜け」。
牧野修(1958-)	万博聖戦	大阪万博会場	万博記念公園(吹田市)	子供たちが侵略者である大人たちと1970年の大阪万博会場で激突する。
万城目学(1976-)	プリンセス・トヨトミ	空堀商店街	中央区谷町、上本町	主人公の父親のお好み焼き屋「太閤」がある。映画版のロケ地にもなった。
		榎木大明神	中央区安堂寺町2-3	第二次大戦を逃れた神木。主人公が毎日ある願いをする。
		大阪府庁舎本館	中央区大手前2-1-22	会計検査院の役人たちが調査に乗りこむ。「ブラックレイン」や「HERO」のロケ地でもある。
		上町通~大阪城公園	中央区大阪城 1	クライマックスに大阪国の国民が集結する。映画版では5000人以上のエキストラを集めた。
正岡子規(1867-1962)		句碑	東光院(豊中市)	毎年九月に「子規忌へチマ供養」「萩の四季俳句会」を開催。「ほろほろと 石にこぼれぬ 萩の露」。
		句碑	妙國寺(堺市)	決定的な資料はないものの漱石の妙國寺訪問に子規も同行したと推定される。「朝寒や 蘇鉄見に行く 妙国寺」。
増山実(1958-)	勇者たちへの伝言 いつの日か来た道	大阪球場	現・なんばパークス(浪速区)	阪急ブレーブス応援団長の今坂さん(実在の人物)が阪急を応援するきっかけとなった試合を観戦したと語る。
松尾芭蕉(1644-1694)		芭蕉終焉の地碑	中央区久太郎町3	弟子の不和を解消するため来阪し、この地にあった花屋仁左衛門の屋敷で病没。御堂筋線拡張の影響で碑は中央分離帯内に入ってしまった。
		芭蕉堂	梅旧院(天王寺区)	蕉風復古のために設置された大阪唯一の芭蕉堂。不二庵二柳が建てたものが荒廃し、大正年間に松瀬青々が復元。
		句碑	難波別院南御堂(中央区)	来阪し病に倒れた最晩年の芭蕉が詠んだ「旅に病んでゆめは枯野をかけまはる」。
		句碑	妙法寺(中央区)	芭蕉百五十回忌に際しての建立と考えられる。「御命講や 油のやうな 酒五升」。
		句碑	生國魂神社(天王寺区)	「菊に出て 奈良と難波は 宵月夜」、元禄七年九月九日、芭蕉最後の旅の道中、同神社で詠んだ。
		句碑	浦江聖天了徳院(福島区)	「杜若 語るも 旅のひとつ哉」、元禄元年『笈の小文』の途中で大阪に滞在した際に詠んだ句。
		句碑	福島区医師会館(福島区)	各地を転々としていた碑をかつて同地にあったレストランの経営者が私費を投じて入手した。「芋洗う女 西行ならば 歌よまむ」。
		句碑	大江神社(天王寺区)	「あかあかと 日はつれなくも 秋の風」、四面に芭蕉、三津人、千李、暁台の句が刻まれている。
		句碑	太融寺(天王寺区)	芭蕉の門弟・斯波園女の檀那寺が同寺である。「しら菊の 目に立て見る 塵もなし」。
		句碑	中島惣社(東淀川区)	「宮人よ わが名をちらせ 落葉川」、同句を刻んだ碑は多度権現にもある。
		句碑	臨江寺(堺市)	「口切りに さかいの庭ぞ なつかしき」、地中に長年埋まっていたものが発見され整備された。
		句碑	住吉公園(住吉区)	芭蕉が住吉大社の宝の市神事へ参拝し、詠んだ「升買て 分別かはる 月見かな」。
		句碑	万福寺(天王寺区)	彦根の明照寺を訪れた際に詠んだ「尊かる なみたや染めて ちるもみち」。
		句碑	信太森葛葉稻荷神社(和泉市)	安倍清明の稻荷伝説で有名。「葛の葉の おもて見せけり 今朝の霜」。
		句碑	大阪天満宮菅家廊下入口脇(北区)	「行年や 葉に見たき 梅の花」、これが芭蕉の句であるかは疑問視されている。
		句碑	大阪天満宮白米稻荷神社(北区)	「煤咲て よろこぶ鳥の 気色かな」、同様に芭蕉の句であるかは疑問視されている。
		句碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「ふる池や 蛙飛込む 水のおと」。
		句碑	玉川の里(高槻市)	「うのはなや暗き柳のおよびごし」。同地は初夏の白い卯の花が有名。
		句碑	真如寺(高槻市)	本堂の奥庭に埋もれていたものを発見し移設。「雲雀鳴く中の拍子や 雉子の声」。
		句碑	慈眼寺(大東市)	本堂裏手の山にある。「観音の いらか見やりつ 花のくも」。
		句碑		敷地内の茶店の庭にある。「涅槃会や 皴手合する 数珠の音」。
		句碑	勸成院(東大阪市)	折れたものを接着した跡がある。暗峠を詠んだ「菊の香に くらがり登る 節句かな」。
		句碑	奈良街道(東大阪市)	現在、勸成院内にある芭蕉句碑が所在不明になった時期に有志が建立。「菊の香に くらがり登る 節句かな」。
		句碑	清滝天満宮(四条畷市)	「いささらは雪見にころふところまで」。松永貞徳、西山宗因の句も刻まれている。
		浮瀬俳跡芭蕉園	大阪星光学園(天王寺区)	同地に大阪屈指の料亭・浮瀬があり、芭蕉が句会を開いたことがある。整備された敷地内には複数の句碑が立っている。
		墓所、反古塚	浄春寺(天王寺区)	芭蕉のフォロワーである鳥酔によって再建されたものとされる。
		墓所、句碑、芭蕉茶屋碑	円成院(天王寺区)	志太野坡が建立した後に、別の人物が再建したものとされる。同寺には初代植村文楽軒の墓もある。
		墓所	梅旧院(天王寺区)	二柳墓と並んでいる。志太野坡宅にあったものと推測され、大阪の芭蕉墓の中でも最古の者の可能性がある。
		墓所	瑞龍寺(浪速区)	昭和51年に再建されたもの。元は寛政5年に百回忌記念に八千房駝岳が建立。隣には其角墓。
		墓所	四天王寺(天王寺区)	北墓地の西南隅に志太野坡墓とともにある。宝暦12年に野坡の弟子である湖白庵浮風が建立。
		墓所	経王寺(堺市)	「芭蕉翁墓」と刻まれている。
		墓所	吉田墓地(東大阪市)	花園ラグビー場の西側。詳細不明だが、天保年間に百五十回忌記念で建立されたと推測されている。
		墓所	瑞龍寺(浪速区)	松尾芭蕉の後継者を自認した上方享保俳壇の中心人物。半時庵とも称する。

松木淡々(1674-1761)		八千房代々墓	瑞龍寺(浪速区)	淡々の門人である八千房舎悌を始祖とし、十世まで続いた流派。
		句碑	生國魂神社(天王寺区)	淡々は同社に二百両寄付したとも伝えられている。「しののめや 涼しき綿の 花ざかり」
松瀬青々(1869-1937)		生誕地の碑	中央区北浜4-6	ホトトギス派の俳人。大阪俳壇の立役者。『宝船』『倦鳥』などを主宰。
		旧跡碑	福島区海老江4-10-17	青々は明治39年から大正10年まで同地に居住していた。
		句碑	海老江八坂神社(句碑)	青々創立の海老江吟社(後に海老江句会)からの依頼で自身の句から選んだ「菜の花のはじめや北に雪の山」。
		墓所	南桂寺(福島区)	「青々先生墓」。十三回忌に門人たちによって建立された。
		墓所、句碑	正覚寺(天王寺区)	墓の左面に掘られていた「月見して如来の月光三昧や」が句碑として独立した。
		句碑	定の山古墳(堺市)	昭和初期に同地を吟行で訪れた青々が野鳥の様子を詠んだ「百舌鳥をちこちに」の句碑。
		句碑	勝尾寺(箕面市)	「開成皇子の あとを今しも 月わたる」。
		句碑	孝恩寺(貝塚市)	青々は同地において貝塚千古吟社を結成している。「弥勒仏の下生をいつと囀れり」。
		句碑	枚岡神社(東大阪市)	「また梅の寒きに蟹の裏表」。
		句碑	高石神社(高石市)	「濱の秋和歌三神に灯をあぐる」。
		句碑	弘川寺(河南町)	「鶯やいつの世までをさびしさに」。
松永貞徳(1571-1654)		句碑	清滝天満宮(四条畷市)	江戸前期の俳人。「天長く ちひと潜るや秋の月」。松尾芭蕉、西山宗因の句も刻まれている。
眉村卓(1934-2019)	ねらわれた学園	大阪市立阪南中学校	阿倍野区北畠1-16-24	恐怖の管理教育組織と化した阿倍野第六中学校のモデルであり作者の母校。桑名正博、逸見政孝らもOBである。
	健在なり、大阪のチンチン電車	上町線(阪堺電車)	天王寺区〜住吉区	眉村は天王寺を訪れるたびに同路線を走る電車を思わず見てしまうという。文中に登場する住吉公園駅は2016年に廃止。
三浦綾子(1922-1999)	細川ガラシャ夫人	越中井	中央区森ノ宮中央2-12	石田三成に人質にとられそうになった細川ガラシャが家臣に胸を突かせて命を落とした場所。
三浦しをん(1976-)	仏果を得ず	国立文楽劇場	中央区日本橋1-12-10	第2回大阪ほんま本大賞受賞作。主人公は修学旅行で訪れた国立文楽劇場で感銘を受け大夫の道に進む。
三島由紀夫(1925-1970)	愛の渴き	岡町駅	豊中市中桜塚1-1	豊中を描いた作品。主人公の悦子は阪急宝塚線の同駅で降車し、姑の農園へと帰る。
水田西吟(?-1709)		墓所	瑞輪寺(豊中市)	江戸前期の俳人。西山宗因に師事。書にも優れており西鶴の『好色一代男』の板下を書いた。
		「街角の再発見」碑	阪急岡町駅前(豊中市)	岡町の歴史についての碑。同駅近くの瑞輪寺に眠る西吟の「新月の斧にちるらむ華のけふ」が刻まれている。
水原秋桜子(1892-1981)		句碑	勝尾寺(箕面市)	新興俳句運動の筆頭となった俳人。「馬酔木」を主宰。「朝霧浄土夕霧浄土葛咲ける」。
水元其梁(?-1768)		墓所	瑞龍寺(浪速区)	松木淡々の高弟。淡々墓の隣の自然石。
三田誠広(1948-)	高校時代	大手前高校	中央区大手前2-1-11	大阪城向かいに立地する三田の出身校。昭和三十九年に入学してからの日々をフィクションを交えつつ描く。
水上瀧太郎(1887-1940)	大阪の宿	文学碑	北区中之島3	会社員として大阪に赴任した時期に材をとった作品。
南川泰三(1943-)	玉撞き屋の千代さん	保名倶楽部(ビリヤード場)	阿倍野区王子町1-11-2	主人公の女ハスラー「千代さん」は作者の母。浜木綿子主演で舞台化もされた。
皆吉爽雨(1902-1983)		句碑	豊国神社(中央区)	福井県出身の歌人。高浜虚子に師事し、ホトトギスに投句。「刻々に 大秋雨と なる如し」。
		句碑	岸和田城二の丸広場（岸和田市）	皆吉は戦中に岸和田へ疎開。昭和二十九年の岸和田城再建の際に詠んだ句「城山へ かつ天守へと 登高す」。
宮武外骨(1867-1955)		ゆかりの地碑	西区江戸堀 2	明治時代の反骨のジャーナリスト。東京から大阪に移った外骨は同地で代表作『滑稽新聞』を刊行している。
宮本竹逕(1912-2002)		歌碑	住吉大社(住吉区)	かな書道の大家。「清水もて端溪の硯すすぎつ何書かんかと想ひは翔る」。
宮本輝(1947-)		宮本輝ミュージアム	追手門学院大学附属図書館(茨木市)	文学部OBである宮本の自筆原稿や愛用の品、年譜などを展示。
	泥の河	文学碑	西区土佐堀3-5-1	1977年太宰治賞受賞作。安治川河口に暮らす少年の友情と分かれを描く。作中の風景はもうない。
	道頓堀川	幸橋	西区 6	喫茶店リバーのマスター武内は幸橋から夜の道頓堀川を眺め、人生を考える。
	星々の日々	中之島図書館	北区中之島1-2-10	宮本の浪人時代が題材。主人公は予備校に通うと言いつつ図書館で露仏文学ばかりを読む。
	青が散る	阪急東通商店街	北区小松原町〜堂山町	茨木市の大学に通う主人公の椎名は仲間たちと共に頻繁に同商店街の喫茶店にたむろする。
	赤ん坊はいつ来るか	端建蔵橋	北区〜西区	昭和三十年代、小沢さんの奥さんは端建蔵橋の橋げたに流れ着いた赤ん坊の遺体を目撃し頭が変になる。
三好達治(1900-1964)		三好達治記念館、墓所	本澄寺(高槻市)	三好の十三回忌を記念して遺族が設立した。自筆原稿や愛用の酒器、茶碗などを展示。
	乳母車	歌碑	中之島公園(北区)	三好の代表作の一節。
紫式部 (?-?)	源氏物語	光源氏住吉詣碑	南海電車住吉公園駅西（住之江区）	「滯標」の巻で光源氏が住吉詣をする情景が描かれたレリーフ。住吉名勝保存会が昭和57年に建立。
百田宗治(1893-1955)	何もない庭	歌碑	新町北公園(西区)	童謡『どこかで春が』作詞者。児童文学、校歌での功績が大きい。
森鷗外(1862-1922)		山辺丈夫墓所	阿倍野霊園(阿倍野区)	大阪紡績の成功で有名な企業家である山辺の墓の横の碑文を医学博士・森林太郎として書いた。
	堺事件	宝珠院	堺市堺区宿屋町東3-53-2	1868年に土佐藩士がフランス人を殺傷した史実上の事件を描く。同地に十一烈士の墓が建つ。
森田峠(1924-2013)		句碑	枚岡神社(東大阪市)	俳人。「梅林の なかでたた 一枝描く」。

森見登美彦(1979-)	太陽の塔	太陽の塔	万博記念公園(吹田市)	銜学的な主人公は、元カノが大好きだった太陽の塔に思いをはせる。
森本薫(1912-1946)	女の一生	文学碑	中津公園(北区)	森本は中津出身。代表作『女の一生』は杉村春子主演の演劇として有名。
安江不空(1880-1960)		歌碑	住吉大社(住吉区)	歌人、画家、書家。住吉大社の絵所預でもあった。御田植神事寿歌の一部が刻まれている。
安田章生(1917-1979)		句碑	弘川寺(河南町)	西行研究で有名な国文学者、歌人。「西行人のみたまつつむと春ごとに 花散りかゝる そのほかのうえ」。
安田青風(1895-1983)		歌碑	住吉大社(住吉区)	昭和の歌人。長男の章生と「白珠」を主宰。「松の間にひかりていつも海はありとこしへにかくあれ松と海」。
		歌碑	服部天神(豊中市)	「豊中三大文化人」として書家の西田王堂、画家の矢野橋村とともに一基ずつ石碑が建てられている。
柳原白蓮(1885-1967)		歌碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「和田津海の 沖に火燃ゆる 火の国に 我あり誰そや 思はれ人は」。
山口誓子(1901-1994)		句碑	豊国神社(中央区)	高浜虚子に師事。「ホトトギス派4S」の一人。「花盛ん築城巨石又盛ん」。
		句碑	本願寺難波別院(中央区)	同寺の付近で没した松尾芭蕉を詠んだ「金色の御堂に芭蕉忌を修す」。
		句碑	勝尾寺(箕面市)	「ひぐらしが 下界に鳴けり 皇子のため」。
		句碑	摂津峡公園(高槻市)	誓子が同地を訪れ蛍を見た感動で詠んだとされる。「流蛍の 自力で水を 離れ飛ぶ」。
山崎豊子(1924-2013)		墓所	藤次寺(天王寺区)	山崎が生前に執筆した作品名を刻んだ墓誌がある。毎年9/29に豊子忌。
	暖簾	オーガニックビル	中央区南船場4-7	小倉屋山本本社ビル。豊子が三代目山本利助の実妹であることから豊子ゆかりの品が収蔵されている。
	しぶちん	五代友厚像	大阪商工会議所（中央区）	吝嗇の甲斐あって大商議員に選ばれた「しぶ万」こと山田万治郎は「大阪商人の神さん」五代友厚の像を見て感激する。
	白い巨塔	阪大病院跡地	北区中之島4-3-53	現・阪大中之島センター。白い巨塔の舞台となった浪速大学は阪大病院がモデル。
山上憶良(?-?)		歌碑	観音山公園(枚方市)	隣には七夕伝説にちなんだ牽牛像。「彦星の妻迎へ舟こぎ出らし天の川原に霧の立てるは」。
山村美紗(1931-1996)	大阪国際空港殺人事件	大阪国際空港	中市螢池西町3-555	伊丹空港税関検査官今井陽子が様々な事件の真相を暴く。
山本巧次(1960-)	阪堺電車177号の追憶	阪堺電車	大阪市~堺市	2018年「大阪ほんま本大賞」受賞作。阪堺電車を舞台とした85年間の人間模様を描く。
梁石日(1936-)		誕生地	東成区玉津	周辺には案内板が設置されている。近くには松下幸之助起業の地がある。
	夜を賭けて	大阪砲兵工廠	大阪城～大阪ビジネスパーク	アパッチとして砲兵工廠から金属を盗む主人公の警察との戦いや仲間との別れ・再会を描く。
横溝正史(1902-1981)	面影双紙	住吉公園	住之江区浜口東1-1-13	主人公の母は住吉公園の料亭で歌舞伎役者と逢瀬を重ねる。
	蝶々殺人事件	大阪市中央公会堂	北区中之島1-1-27	由利麟太郎シリーズの一編。人気ソプラノ歌手が公会堂での公演を前に殺害される。
与謝野晶子(1878-1942)		生家跡の碑	堺市堺区甲斐町西1-1	晶子が生まれた菓子屋「駿河屋」跡。旧紀州街道に面していた。碑は海をイメージしたタイルなどデザインに工夫が凝らされている。
		大寺餅河合堂	堺市堺区少林寺町西4-1-27	開口神社境内で創業した菓子屋。幼少期の晶子も食べた。あんころ餅やきなこ餅が有名。
		覚応寺、歌碑	堺市堺区九間町東3-1-49	住職の河野鉄南が晶子と後の夫・与謝野鉄幹を引き合わせた。晶子の命日5/29には白桜忌。
		歌碑	浜寺公園(堺市)	鉄幹と晶子は、初めて出会った次の日に浜寺公園内の料亭「寿命館」での歌会に揃って出席し、距離を近づけた。
		薫主堂	堺市堺区北半町西2-1	明治20年創業の線香屋。NHKが晶子のドラマを制作時に生家「駿河屋」として使用した。
		七まち 鳳翔館	堺市堺区錦之町西1-2-17	土日のみ開館の私設休憩所。2階に晶子の歌の紹介展示。
		さかい利晶の杜	堺市堺区宿院町西2-1-1	堺観光の目玉の一つ。堺が生んだ偉人である与謝野晶子と千利休を紹介する。裏手には千利休屋敷跡。
		歌碑	三菱UFJ銀行堺支店前(堺市)	生家跡の道路を挟んで向かい側。「菜種の香古き堺をひたすらむ 踏ままほしけれ殿馬場の道」。
		歌碑	本願寺堺別院(堺市)	廃藩置県後、堺県庁として使用された。本堂横に歌碑。
		歌碑	大仙公園(堺市)	中央図書館前、公園中心に1つずつの歌碑。
		歌碑	水野鍛錬所前（堺市）	江戸幕府御用達の鉄砲鍛冶の屋敷跡。「住の江や 和泉の街の七まちの 鍛冶の音きく 菜の花の路」
		歌碑	開口神社(堺市)	晶子が幼少期に遊んだ境内の樟を詠んだ「少女たち 開口の神の 樟木の 若枝さすごと のびて行けかし」。
		歌碑	堺市堺区香々丘町5-1	晶子は堺に住んでいた頃に大和川を訪れている。「大和川 砂にわたせる 板橋を 遠くおもへと 月見草咲く」。
		歌碑	千里南公園(吹田市)	文学に触れることを目的に公園全体に歌碑が散在している。「やわ肌の あつき血汐に ふれも見でさびしからずや 道を説く君」。
		歌碑	湊駅前公園(堺市)	「ちぬの浦いさな寄るなるをちかたはひねもす霞む海恋しけれ」「夕されば浜の出島のうたひめの島田にまじりかはほりぞ飛ぶ」。
		歌碑	石津神社(堺市)	「人とわれ おなじ十九の おもかげを うつせし水よ 石津川の流れ」「石津川 ながれ砂川 髪をめでて なでしこ添へし 旅の子も見し」。
		歌碑	大鳥大社(堺市)	晶子は同社の渡御祭を経験している。「和泉なる わがうぶすなの 鳳の 宮居の杉の 青きひとむら」。碑文は田辺聖子による。
		歌碑	少林寺小学校(堺市)	晶子は同校の前身である宿院小学校の出身。正門前に「をとうとはおかしおどけし紅き頬に涙流して笛ならうさま」。
		歌碑	賢明学院中学高等学校(堺市)	校内のマリア像のそばにある。1925年に『瑠璃光』に収録された「少女の 祈りの心 集まれば ましてマリアの 御像光る」。
		歌碑	金岡高等学校(堺市)	「金色の ちひさき鳥の かたちして 銀杏ちるなり 夕日の岡に」。そばには歌と同じように銀杏の木が植えられている。
		歌碑	羽衣国際大学(堺市)	碑建立当時は女子大であり、学生たちの活躍への祈りが込められている。「朝ばらけ 羽ごろも白の 天の子が 乱舞するなり 八重桜ちる」。

		立像	南海本線堺駅西口(堺市)	晶子の全身像。土台には「ふるさとの 潮の遠音の わが胸にひびくをおぼゆ 初夏の雲」の歌。
		立像	コクリコさかい(堺市)	晶子の全身像。土台には「すべて眠りし女今ぞ目覚めて動くなる」。
		堺山之口商店街	堺市堺区2	晶子の詩歌がかかれたフラッグがかかっている。与謝野晶子グッズなどを販売。
	山の動く日	歌碑	堺女子短期大学(堺市)	女性の自立を呼びかけた詩。1911年に『青鞥』に掲載された。
	故郷	歌碑	妙國寺(堺市)	織田信長も関心を示した大蘇鉄が有名。晶子以外に徳川家康や正岡子規の歌碑もある。
	君死にたまふことなけれ	歌碑	泉陽高校(堺市)	晶子が「堺女学校」時代に在籍。創立70周年記念で建立。校内なので見学には要連絡。
	私の生い立ち	文学碑	上神谷小学校(堺市)	晶子が8歳ごろに家族と共に松茸狩りをした思い出を「たけ狩」と題して回想した文章。
		大阪博物場	現・マイドームおおさか(中央区)	1874～1914まで同地にあった博物館、美術館、図書館、動物園、公園等の複合施設。幼少期の晶子がしばしば訪れた。
中之島公園		北区中之島1-1	晶子が幼い頃に大阪に行く際は、吉助園(植木屋)～大阪博物場～中之島公園～網彦(川魚料理店)がお決まりのルートであったという。	
与謝野鉄幹(1873-1935)		安養寺	住吉区遠里小野5-12	鉄幹は10歳の頃に同寺の住職である安藤秀乗の養子となっている。
与謝蕪村(1716-1784)		誕生の地碑、句碑	都島区毛馬町3-7-13	毛馬出身の俳諧中興の祖、淀川改修百周年記念に建立。「春風や 堤長うして 家遠し」。
		句碑	浜寺公園バラ園内(堺市)	「花いばら 故郷の路に 似たる哉」。
		句碑	大阪星光学園(天王寺区)	蕪村は同地にあった料亭「浮瀬」を訪問していた。「うかぶ瀬に沓並べけり春のくれ」。
		句碑	三光神社(天王寺区)	六々閑人、白縁斎梅好の句と共に刻まれている。「子狐のかくれ貌なる野菊哉」。
		モニュメント	梅田芸術劇場前(北区)	円錐と輪の合体した形状。蕪村の代表作「菜の花や 月は東に 日は西に」。
		春風馬堤曲碑	都島区役所(都島区)	春風馬堤曲について蕪村自身が解説した書簡からの抜粋。
		蕪村像	淀川神社(都島区)	蕪村生誕300年を記念し、NPO法人近畿フォーラム21主宰で座像が設置された。
		春風橋	都島区毛馬町1-1	城北川に架かる。蕪村の「春風や 堤長うして 家遠し」からの命名。親柱に刻まれた文字は蕪村の筆跡を複写。
		蕪村公園	都島区毛馬町1	2009年開園。公園内には蕪村の事績解説パネルや顕彰碑、13基の句碑などが設置されている。
		源八橋	北区～都島区	かつての地名・源八町にちなんだ橋名。解説板で蕪村の「源八をわたりて梅の あるじかな」に言及。
		句碑	佐太天神宮(守口市)	蕪村が毛馬に帰る道中で詠んだとされる「窓の灯の 佐太はまだ寝ぬ 時雨かな」。
		句碑	東大阪市新喜多2-5	地域住民が蕪村筆と伝えられる俳画を元に建立。口を開けた蛙三匹が描かれている。「日は日くれよ夜は夜あけよと啼くかわす」。
吉川則比古(1902-1945)	學園文藝歌「暁鐘」	文学碑	大阪商業大学高等学校(東大阪市)	大正、昭和期の詩人。三木露風に師事。同校で15年間にわたり英語、国語、作文を教えた。
吉田兼好(?-?)		兼好法師隠棲庵跡、藁打石	正圓寺(阿倍野区)	兼好法師が諸国を遍歴する中で同地に一時期暮らし、藁を打って商売をしたという巷説がある。
吉村達也(1952-2012)	空中庭園殺人事件	梅田スカイビル空中庭園	北区大淀中1-1-88	精神分析医・氷室想介シリーズ。2008年にはタイムズ紙の「世界の建物トップ20」にも選ばれた観光地での殺人事件。
頼山陽(1781-1832)		生誕地の碑	金光教玉水記念館前(西区)	江戸時代きっての思想家、漢詩人。同地には山陽の父・春水の「青山社」があった。「此付近頼山陽生誕地」。
		詩碑	箕面の滝(箕面市)	母を伴って田能村竹田らと共に同地を訪れた際に作った詩が刻まれている。このことから箕面の滝は「孝養の滝」とも呼ばれる。
令丈ヒロ子(1964-)	パンプキン!模擬原爆の夏	模擬原子爆弾投下跡地之碑	恩楽寺山門(東住吉区)	1945/7/16、田辺に「パンプキン」という模擬原爆が投下された。主人公は碑を見てそのことを知り、夏休みの自由研究として調べ始める。
王仁(?-?)		歌碑	御幸森天神宮	百済からの渡来人・王仁が仁徳天皇即位を記念して詠んだとされる「難波津の歌」が日本語とハングルで刻まれている。